ゐのはな

千葉大学医学部同窓会報　第154号　題字　故鈴木五郎（大11卒　元ゐのはな同窓会長）

編集発行者
千葉大学医学部
ゐのはな同窓会報編集部
〒260-8670　千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
ゐのはな同窓会
電 話（043）202-3750
FAX（043）202-3753
e-mail：info@inohana.jp
HP：http://www.inohana.jp/

―ゐのはな同窓会―
総会開催のお知らせ

平成22年度ゐのはな同窓会総会を左記により開催いたします。

1．日　時
平成22年6月26日（土）
午後4時より
2．場　所
ペリエホール
（JR千葉駅ビル5階）
電話　043-227-1195
3．議事等
(1)名誉会員の推薦について
(2)年次活動について（報告事項）
①庶務部報告
②事業部報告
(3)平成21年度決算について
①決算報告
②監査報告
(4)平成22年度事業計画について
(5)平成22年度予算案について
(6)役員の補選について
①理事
②常任理事（理事会を総会と兼ねる）
③評議員
(7)新ゐのはな同窓会館設立事業について
(8)その他

ゐのはな同窓会賞表彰式

特別講演
千葉県医師会顧問弁護士
医療紛争相談センター
事務局長
山下　洋一郎　先生
「〝医療紛争相談センター〟の医療ADRについて」

懇親会
午後6時より
会費　1万円
学生会員は無料
（当日受付にて申し受けます）

返信用葉書にて出欠の返事をお送り下さい。その際、個人情報の保護のために同封のシールをお貼り下さい。
なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長にご一任いただいたものとさせて頂きます。（6月15日必着）

千葉県ゐのはな会総会は午後3時から開催します。

平成21年度千葉大学医学部卒業証書・学位記伝達式

ゐのはな同窓会長　伊藤　晴夫（昭39）

皆さん、ご卒業おめでとう御座います。ご家族の皆様も、本当におめでとうございます。卒業生の皆さんは、医師として門出するこの日を迎えられ、喜びもひとしおのことでしょう。本日は皆さんを仲間にお迎えする日でもありまして、私自身にも大きな喜びであります。皆さんは、これまではゐのはな同窓会の学生会員、今日からは正会員です。

ゐのはな同窓会の目的は、一つは会員の親睦と医道の昂揚であります。もう一つは千葉大学医学部の発展への貢献です。会員の親睦につきましては、皆さんご存知かと思いますが、中身の充実した同窓会報を年3回お届けしておりますので、是非お読みになって下さい。さらに、最近では、ホームページの充実にも力をいれています。特に、皆さんのような若い会員には興味を持って貰えると思いますので、積極的なホームページ作りへの参加をお待ちしています。また、ゐのはな同窓会には千葉、東京、関東各県はもとより全国に、各地区のゐのはな会がありまして、将来どこへ行っても、きっと皆さんの力になってもらえます。また、皆さんの方からも積極的にそのような同窓会活動に参加して下さい。

同窓会のもう一つの目的である医学部の支援につきましては、現在でも、ゐのはな同窓会は、図書館に対する補助金、雄翔寮の支援、課外活動の助成、東医体の支援、留学生の支援など幅広い助成をおこなっております。更に卒業後も医療活動の支援や、研究活動の助成などを行っておりますので、これからもできるだけ皆さんの応援をできればと思っております。これからは、皆さんが千葉大の後輩達、あるいは母校を支援するのだ、という意識を徐々に育んで行って頂きたいと思います。

ゐのはな同窓会はその規模と歴史から見ましても日本屈指の同窓会です。千葉大学医学部は昨年、創立135周年を迎えましたので、現在、その記念事業を行っています。この事業には、本日ご出席を賜っております後援会の皆様、すなわち卒業生のご家族の皆様からも、経済状況の厳しいなか、多額のご支援を頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。近日中に立派な135周年記念誌が刊行されます。また、「千葉医学の伝統」を具体的な言葉で表現する、いわゆる言語化プロジェクトも進んでおりまして、卒業生の皆さんにも、近々、母校のイメージと重なった座右の銘をお届けできると思います。

本事業の中核である新同窓会館設立に関しては、第一期工事の予定地を図書館前に決定し、現在、本年中の着工を目指して急ピッチで準備を進めています。この場所は、ゐのはなキャンパスのほぼ中心に位置しており理想的な場所だと思います。皆さんの卒業には間に合わなくて申し訳ありませんでしたが、現会館は老朽化が進み、火災や震災時の危険性から、合宿など夜間の使用は禁止されており、ご不便をおかけしてきました。同窓会館は、サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成にとっても大切な場所です。そこで、第一期工事としては、同窓会事務室、サークル活動等に向いた多目的ホール、合宿施設を中心とした建物を建設することになりました。なお、第二期工事としては、歴史的な資料の展示室等を中心とした同窓会のシンボル的な建物を建てたいと願っておりますので、皆さんもご期待頂くと同時に、ぜひご協力のほどお願い致します。

皆さんはこれから臨床、研究、行政など種々の領域に進んで行くわけですが、皆さんの前には素晴らしい未来と可能性が拡がっています。学部長、病院長を初めとする教職員の皆様方の献身的な教育により，また当然卒業生の皆さんの自己

（次面につづく）

紙面紹介

総会開催のお知らせ　1
卒業証書・学位記伝達式　1～2
就任挨拶　2～3
叙勲感想
最終講義
各地ゐのはな会　4
クラス会　5
医師会役員　6
ゐのはな美術展開催　7～10
水泳部祝賀会　10
研修プログラム　11
研修医だより　12～15
会員から　15～16
追悼文　17～18
著書紹介　19
入学者名　20～21
人事異動　22
議事報告　22～23
会館設立　23
卒後研修先　24～29
お知らせ　30
編集後記　31～32

（前面のつづき）

修練により、皆さんはどこに出ても恥ずかしくない医師一年生に育っています。忘れてならないことは、皆さんがここまで来られたのは、種々な点で恵まれていたからです。世界中には、戦争や貧困のために、初等教育さえ満足に受けられない子供、若者がたくさん居ることに思いをはせて下さい。特に、本日、多くのご家族の方々がご臨席されておりますが、このように恵まれた家庭環境に育ったことに感謝することを忘れないで下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にすえて考え行動して下さい。現在の深刻な経済不況下で、4月から医療現場に出ると、例えば高齢者や恵まれない方々は食事や医療を受けることを控えているという恐るべき事態に向かい合うことになります。皆さんは将来、自分が考えている以上に地域や社会に対して強い影響力を持つことになります。この力を、社会を良くするために使って頂くようお願いしたいと思います。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきました。

就任挨拶

帝京大学医学部 病理学講座 教授 近藤福雄（昭54）

ゐのはな同窓会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、平成22年1月1日をもちまして、帝京大学医学部病理学講座の教授を拝命いたしました。これまで、私を御指導くださいました全ての皆様方に、この場を借りまして、心から感謝申し上げます。

私は、昭和54年に千葉大学医学部を卒業し、第一内科に入局しました。当時の奥田邦雄教授からは、最先端の臨床研究をし、英文論文としてまとめることの重要性を教育していただきました。第一内科、第二内科、第三内科のローテーションを終え、昭和55年10月から、2年半の間、社会保険船橋中央病院で初期研修をさせていただきました。内科部長の永瀬敏行先生（昭29）、本村八恵子先生（昭39）、伊藤文憲先生（昭47）、野口武英先生（昭47）には大変親切に御指導いただきました。また、病理医で検査部長（後の社会保険船橋中央病院院長）の大久保春男先生（昭28）には、解剖を何体もしていただきました。そのため、私は、病理に興味を持ち始め、昭和58年4月より、千葉大学第一病理学教室へ研究生として、昭和59年4月からは第二病理学教室大学院生となりました。岩崎勇先生（昭35）、長尾孝一先生（昭36）（後の帝京大学市原病院病理部教授）には、病理の手ほどきをしていただき、近藤洋一郎教授（昭33）には、研究面から病理一般まで幅広く御指導をいただきました。研究テーマは、肝細胞癌の初期像や肝癌類似病変を一貫して行いました。この研究テーマには、病理の先生方のみならず、第一内科の大藤正雄教授（昭29）、江原正明先生（昭49）（現松戸市立病院院長）はじめ、臨床の先生方にも、多大な御援助と御指導をいただきました。研究当初は、漸く論文にした早期肝細胞癌の病理組織像が、なかなか他施設の方々には受け入れられず、大変難渋しましたが、論文や発表を重ねることで、段々と理解が得られるようになり、国内の標準的診断基準となりました。その後、助手に任命いただき、肝臓の結節性病変の研究を続け、早期肝細胞癌とその類似病変の概念をまとめることができました。

その後、自らの性格は一般病院に向いていると考え、平成9年から、社会保険船橋中央病院で検査部長（病理医）として10年間勤務いたしました。その間、一般病理業務の傍ら、肝内血流異常に起因する肝細胞性結節の研究も並行して行いました。診療業務をともに行い、また、研究の継続を温かく見守ってくださった、高橋誠院長先生（昭46）はじめ、職員の方々には心から感謝します。またこの間、海外に向かっては、これまでの早期肝細胞癌の概念を普及させることに努めました。2002年から始まったInternational Consensus Group of Hepatocellular Neoplasiaのメンバーとして、欧米の病理学者と討議を重ね、これまでの日本の診断基準に対する理解を得ることができ、Consensus paperを刊行することができました。

そして、2007年からは、帝京大学医学部病理学講座の福里利夫教授の御高配により、同教室の准教授に任命いただき、この度の教授就任となりました。帝京大学では、肝胆膵外科に、同門の高田忠敬先生（昭41）と浅野武秀先生（昭44）が続けて教授を歴任されており、誠に心強く感謝いたしております。

今後は、これまで御指導いただいた、病理学の諸先輩方、ならびに、御援助いただいた臨床医の先生方、コメディカルの方々の御恩に感謝しつつ、さらに病理学の発展に尽くしていきたいと考えております。

これからも、旧来にましての御指導御鞭撻をお願いする次第です。

東海大学医学部 消化器外科（肝胆膵） 教授 中郡聡夫（昭58）

この度、2010年1月1日付けにて東海大学医学部消化器外科（肝胆膵）教授を拝命いたしました。教授選考に際しては、元千葉大学学長の磯野可一先生（昭33）から大変力強い応援を頂きました。さらに帝京大学外科教授の浅野武秀先生（昭44）および千葉大学先端応用外科教授の松原久裕先生（昭59）からも心強い応援を頂きました。この場をお借りして3人の先生、および千葉大学同窓会の皆様に心から感謝申し上げます。

私は1983年に千葉大学を卒業し、同年千葉大学第二外科（現先端応用外科）に入局しました。その後、大学病院で10年、第二外科の関連施設である熊谷総合病院で5年、船橋市立医療センターで1年、1999年からは国立がんセンター東病院で約11年消化器外科医として勤

務しました。その間、以下に述べます第二外科の先生方には特にお世話になりました。

私が第二外科に在職した16年間の大部分は、磯野可一先生（昭33）が主任教授でした。その間、磯野先生から常に厳しくも暖かいご指導を受けることができました。特に私が若い頃の教授回診では、緊張して冷や汗をかきながら患者さんの状態を説明したのが懐かしく思い出されます。第二外科に入局した年だと思いますが、当時助手だった浅野先生から肝移植に関する夢のある講義を聴いたことがきっかけで、肝胆膵外科を専攻することを決意しました。1986年から第二外科の移植班に所属し、動物実験、手術、さらには学会発表から英語論文の作成まであらゆる面で浅野先生から直接ご指導を受けました。浅野先生との出会いがなければ私が肝胆膵外科医になることはなかったと思います。また、元東邦大学外科教授の碓井貞仁先生（昭39）には、私達の結婚の仲人をしていただきました。その後もしばしば、公私に渡って心のこもったアドバイスを頂いています。元熊谷総合病院院長の三好弘文先生（昭40）と船橋市立医療センター副院長の渡辺義二先生（昭45）からは、私がレジデントの頃に虫垂炎や胃癌の手術などの基本手技を徹底的に指導して頂きました。最後に、私の同級生で現在国立病院機構千葉東病院臨床研究センター長の剣持敬先生（昭58）からは、動物実験の重要なポイントや手技を細かく教えてもらいました。実験が終わってからよく一緒に飲みに行ったのが、今では楽しい思い出です。

この度私が勤務することになった東海大学は20学部・87学科からなる日本でも有数の規模を持つ大学です。医学部は1974年に設置されましたので、いわゆる新設医大の一つです。東海大学医学部の特色としては、学士編入学の定員が110人中40人と非常に多いことが挙げられます。建学の精神として「科学とヒューマニズムの融合」を謳っており、さらに具体的な教育方針として、「常に患者の気持ちを考えることができ、また問題解決能力を有し、さらに確かな医学的知識と医療技術を身に付けた医師、すなわち良医の育成」を最大の目標としています。確かに東海大学の医学生や東海大学出身のレジデントの先生達を見ていますと、研修に大変意欲的で、医師としての志が感じられます。しかし、最近の医師国家試験での合格率は低迷気味であり、今後改善が急務と考えられます。私も東海大学の教授として、東海大学で学ぶ学生と若いレジデントの先生達に少しでも良い教育と研修を提供できればと考えております。

一方、東海大学付属病院の医療設備は非常に優れていると思います。2006年に完成した800床の新病院は、外見的に大変立派であるだけでなく、中も非常に機能的に出来ています。一例を挙げると中央手術室は100×50mの広さの中に21の手術室があり部屋も廊下も広々としているだけでなく、術中画像診断システムなども整備されています。また、ドクターヘリを有する高度救命救急センターが併設されており、1日の外来患者数は3,000人以上、ベッド稼働率は極めて高く、平均在院日数は短い超急性期型大学病院です。私の所属する消化器外科では週に約25－30件の手術が行われており、特に食道外科の症例数は全国的にもトップクラスです。肝胆膵外科の症例もかなり多いので、私も精一杯努力して全国トップクラスに伸ばしたいと思います。私の夢としては、患者さんだけでなく、肝胆膵外科の研修を希望する若いレジデントが全国から集まるような科にしたいと考えています。そのためには、3K職場といわれる外科の労働環境を改善し、効率的な診療体制作りが不可欠と思います。もちろん魅力的な研究環境と臨床実績も必要だと思います。直ぐには無理ですが、東海大学のスタッフ達と協力しながら着実に改善して行きたいと思います。今後とも千葉大学関係者の方々のご指導およびご協力を心よりお願い申し上げます。

東邦大学大森病院
一般・消化器外科学講座
教授　島田英昭（昭59）

ゐのはな同窓会の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成21年10月1日付けにて、東邦大学大森病院一般・消化器外科学講座教授を拝命いたしましたので、謹んでご挨拶申し上げます。

昭和59年に千葉大学を卒業し、磯野可一（昭33）・落合武徳名誉教授（昭41）のご指導のもと、第二外科（先端応用外科）そして千葉県がんセンターにて、食道・胃腸外科を担当していました。この間、国家戦略プロジェクトである「21世紀COE拠点形成プログラム」のコアメンバーとして、早期癌診断のための血液検査法の開発とP53抗体検査の保険収載、世界初の食道癌P53遺伝子治療の実施、進行食道癌に対する術前重粒子線治療の導入、など最新の治療法の開発に携わってまいりました。すばらしい先輩・同輩・後輩そして多くの幸運に恵まれて、大変充実した診療・研究活動を送ることができました。

ちょうど1年ほど前に、東邦大学から「消化器外科教授公募」の打診があり、平成21年9月1日の教授会にて承認され、昨年10月1日に着任させていただきました。東邦大学は、1925年（大正14年）に、額田晋・豊兄弟によって帝国女子医専として設立された大学です。医学部本部（大森）以外に、大橋・佐倉に合わせて3病院（1,800病床・医療収入640億円）があります。大森病院は、川崎市から東京都城南地区にまたがる地域を担当しています。大森病院には、整形外科の勝呂徹教授（昭47）が在職されており、赴任以来、診療上のいろいろなアドバイスを頂戴しており、ゐのはな同窓会の有難さを感じております。大森病院外科は、従来は、第一外科・第二外科の2講座がございましたが、平成15年に「一般・消化器外科学講座」に統合されて50名強の医局員を擁する大講座となり、消化器外科全般、小児外科、乳腺・甲状腺外科、総合・救急外科（虫垂炎・ヘルニア）などを担当しており、年間手術症例数は1,300例程度です。3次救急指定病院でもあり、毎日外科医3名が当直して緊急手術に対応できる体制となっております。教室員は、皆さん大変紳士的かつ優秀であり、赴任後4ヶ月経過して、概ね順調に診療させていただいております。

今後は、同門の先生方から学んだ事を大切にして、地域密着型で親身な診療を心がけてまいりたいと考えております。早期癌に対する鏡視下手術はもとより、従来治療困難とされていた症例についても、最先端技術を用いた集学的治療法の開発を積極的に進めてまいりたいと思います。また、種々の併発症（虚血性心疾患、慢性腎不全、呼吸器不全など）を有するハイリスク症例に対する手術についても内科・外科の合同チームとして、全力で対応させていただきたいと考えております。東京近郊でご活躍中の同門の先生方には、患者様のご紹介などを通じて大変お世話になることと存じますが、どうぞ末永くご厚情賜りますようお願い申し上げます。

東邦大学大森病院
一般・消化器外科学講座
電話：（代表）
03-3762-4151
FAX：（医局）
03-3298-4348
島田英昭
hideaki.shimada@med.toho-u.ac.jp

受章の挨拶

瑞宝中綬章
叙勲を受章して

片山　喬（昭30）

平成21年秋の叙勲に際しまして、瑞宝中綬章を受章いたしました。

これも偏に、ゐのはな同窓会の諸先生や多くの方々のご指導ご支援をいただき、国立大学で、医学教育（教育・研究・診療）一筋に40年間勤めさせていただいた賜と心から感謝いたしております。

顧みますと、昭和30年千葉大学医学部を卒業し、大学院医学研究科に進学し、終了後昭和35年、千葉大学に文部教官として採用されました。泌尿器科教室に19年間勤務しその間、同窓会の先輩諸先生方に大変お世話になりました。この機会に心から感謝申し上げます。

昭和54年より島崎教授のご支援により、新設大学の富山医科薬科大学に教授として、4名の医局員とともに就任し、泌尿器科講座を創設いたしました。21年間勤務し、その間、昭和62年より医学部長4年、医学部看護学科設置準備室長1年、副学長（兼）附属病院長6年と後半の11年間要職を勤めさせていただきました。0から出発した新設大学でしたので、新しい体制への整備、施設準備等、多方面での対応に、多くの方々のご協力ご支援を得てすすめて参りました。その間、特に千葉大学泌尿器科教室、看護学科、医学部長、附属病院長の諸先生方には、多大のご指導、ご支援をいただき心から深謝申し上げ、ゐのはな同窓会員であったことを大変幸せに思いました。又、富山県医師会副会長（生涯教育担当）を4年させていただき、地域医療について学ぶ機会となり大変役立ちました。

大学退官後は富山県腎臓バンク理事長と、老人保健施設の施設長として8年間勤務し、平成20年5月、退職し、現在は、療養につとめております。

ゐのはな同窓会の更なる発展と皆様のご活躍を、はるかに祈念いたしております。

瑞宝双光章
叙勲にあたって

遠山　寅雄（専27）

この度は計らずも平成21年度秋の叙勲で受賞の栄に浴しました事は誠に有難く、心から御礼を申し上げる次第で御座います。

これもひとえに長年に亘りゐのはな同窓会、君津木更津医師会、市原医師会の先生方をはじめ其の他の多くの先生方、皆様方から頂いた御指導御鞭撻の賜と心から感謝を申し上げる次第で御座います。

第一内科に入局し種々御指導を頂き、昭和35年4月に現在の袖ヶ浦市に開業し、其の後昭和40年に市原に市原病院を開業致し、地元の校医等を継続し君津木更津医師会副会長、議長等を長年務めさせて頂きました。この間袖ヶ浦市の種々の委員及び教育委員も歴任し、袖ヶ浦に昭和61年5月より社会福祉法人慈協会特別養護老人ホームサニーヒルを開設し社会福祉に参入致しました。

私事で恐縮ですが、長浦村（現袖ヶ浦市）第四代村長の孫として生まれ、千葉一校より千葉大専に入学致しました。当時は帝国海軍特殊潜航艇の軍医として日々心を躍らして勉強したものです。当時の千葉大学の講堂には数多くの戦死者の先輩の写真がずらりと並んでいた事が今でも目にやきついて居ります。其の下で講義をうけました。

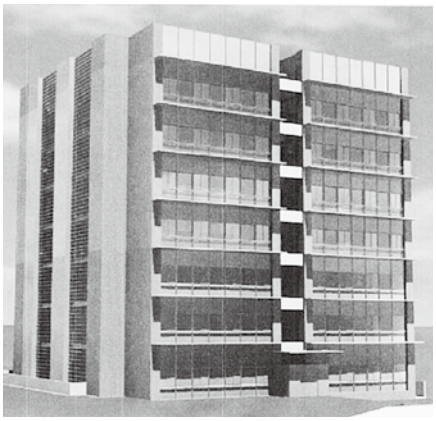
私は第一内科・石川憲夫教授、三輪清三教授、外科河合直次教授、中山恒明教授、綿貫重雄教授、解剖・安中正哉教授、耳鼻科・北村武教授、眼科・鈴木宣民教授、泌尿器科・百瀬剛一教授、衛生学・相磯和嘉教授等、多くの教授の講義が思い出されます。大変お世話になりました。

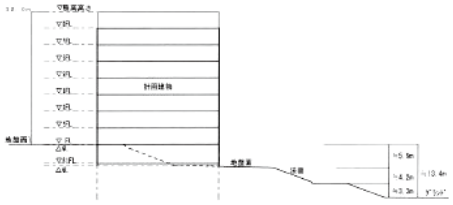
今後も兎に角医師として日々努力して参りたいと思って居ります。皆々様本当に有難う御座いました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

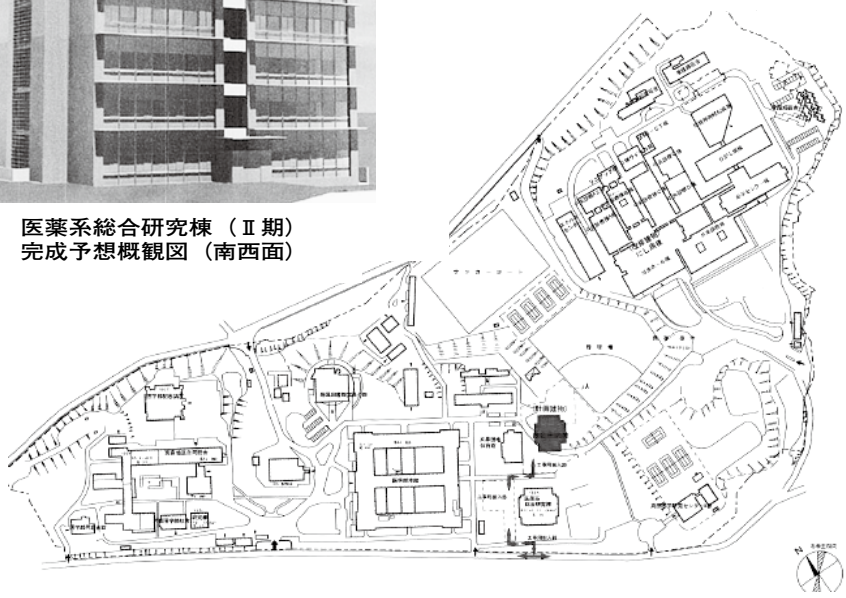
学内情報

医薬系総合研究棟 Ⅱ期工事始まる

懸案であった医薬系総合研究棟のⅡ期工事が平成22年1月に着工された。完成は平成23年2月末である。医薬系総合研究棟（Ⅰ期棟）は平成16年に竣工し、薬学部の半分がすでに移転しており、Ⅱ期棟建設は懸案事項であった。Ⅱ期棟の建設場所は、野球場と体育館の間で、建築面積1,074平米、延べ面積7,734平米であり、薬学大学院の半分および薬学部校舎、事務室等が移転しⅡ期棟が薬学部のメインの建物として位置づけられる。建物は地下1階、地上7階で、地下1階に大型実験室、1階に300人収容の講堂、2階～6階には薬学系研究室が整備され、7階は全学共同利用スペースとなる。







医薬系総合研究棟（Ⅱ期）
完成予想概観図（南西面）

最終講義

「和漢診療学形成の道程」外伝

和漢診療学
寺澤捷年（昭45）

定年という節目を迎え、人生を振り返ると偶然と必然とがない交ぜになっており感慨もひとしおである。もっとも仏教では偶然の積み重ねで、必然的とも思われる結果がもたらされることを「縁」と言う。

これは正しく縁と呼べようが、私が漢方という医術のあることを知ったのは小学生の頃であった。と言うのは叔父である小倉重成（昭17）の家に遊びに行くと様々な生薬が納戸に収納されており、臭いや味を体験した。この叔父の眼科・漢方での兄弟子が藤平　健先生（昭15）で、この二人が「千葉大学東洋医学研究会」の主たる指導者として学生に漢方の真髄を教授されていたのである。

私は昭和39（1964）年に千葉大学医学進学課程に入学した。これによって絶滅に瀕していた漢方を系統的に学ぶ機会に恵まれたのである。藤平、小倉の両先生はご開業なさっていたが、毎週木曜日に来学され、当時、眼科学教室にあった生薬室で院内からの紹介患者数人を診察し、その後に各1時間の系統講義をして下さった。当時の医学部は医学進学課程（2年間・西千葉）と医学部（4年間・亥鼻）がはっきりと区別されており、解剖学を初めとする専門教育は3年次から開始されていた。私は医学進学課程の1年次の末から亥鼻の「東洋医学研究会」に入会したので、最初に接した臨床医学は漢方であった。漢方を学びはじめて約1年が経過した20歳の頃に確信したことは、東洋と西洋の医学を共に活用すれば必ずや理想の医療が展開できると言うことであった。

昭和45（1970）年、医学部を卒業することになり進路を両先生にご相談したところ、内科学を勧めてくれた。当時の大学は学園紛争中であり「非入局」が申し合わされていた。そこで、学外研修について第一内科の川口新一郎先生（昭30）に口利きをお願いし、川崎製鉄千葉病院内科の佐藤重明先生（昭35）のご指導を得ることになった。昭和46年に闘争方針が変更になり、44年卒、46年卒の皆さんと共に大学の医局に入局することになった。奥田邦雄教授の主宰されていた当時の第一内科は8部門に分かれていた。私は迷わずに渡辺誠介講師（昭27）がリーダーであった「神経グループ」（当時は筋電図室と呼んでいた）を選んだ。この選択には3つの理由がある。第一は極めて曖昧模糊としている漢方の「反対学」として神経学は最適と考えたこと。第二は東洋医学研究会の先輩である松下嘉一先生（昭36）が筋電図室で漢方の臨床を果敢に実践していたこと。そして第三は川口新一郎先生のお人柄に惹かれていたからである。その後、渡辺誠介先生に随行して英国の国立神経病院で学ぶ機会に恵まれたが、ここに集まっていた世界の俊秀が神経解剖学に極めて詳しいことに驚いた。そこで帰国後に中枢神経解剖学を学ぶ決意を固め、大谷克巳教授の大学院生となった。

昭和54（1979）年に大学院を修了し、前年に新設された神経内科（平山惠造教授）に入局。勇躍この道に邁進することになった。しかし人生「一寸先は闇」である。その数ヶ月後に第二内科の熊谷　朗教授（当時、東洋医学研究会の顧問教官）から呼び出しがあった。「寺澤君。君の漢方に対する情熱には日頃から敬服している。この度、新設される富山医科薬科大学附属病院に和漢診療部が出来る。君の理想が実現出来る格好の場だ。富山に行かないか」とのご託宣である。そこで考えたことは「自分は漢方と西洋医学との統合のために反対学として神経内科学を専攻したのである。この原点を見失ってはならない」と。弱冠34歳の決断であった。

この和漢診療部は病院長直属の臨床部門であったが、昭和58年に熊谷教授が副学長・病院長として赴任された。これは私にとって幸運な出来事であった。常に病院長の庇護の下に活動出来たからである。しかし、よくよく考えると、私の人事も含め、熊谷先生の背後に大きな力が働いていたのかも知れない。必然か偶然か未だに判らない。

本題に戻ろう。漢方の長い歴史の中で決定的に欠如していたものは「何故だろう？」「どの様な機序で薬効が発現するのだろう？」という疑問を発して来なかったことである。

そこで、和漢診療部で手がけた最初の仕事は漢方診断の普遍化であった。散文的に古典に記されている病態を普遍的な形式知にする作業であり、言ってみればアナログ情報をデジタル化することである。数学者の協力の下に多変量解析を行い一定の成果を挙げることが出来た。

次いで、この診断基準によって認識された病態の科学的解析を行った。瘀血病態については、その主要な部分は微小循環障害であることを明らかにし、その異常が赤血球間の架橋分子の出現に依ることを突き止めた。

漢方薬は多数の化学成分を含有する生薬を、さらに複数組み合わせて成り立っている。従ってその薬効は多面的であり、その全てを解き明かすことは困難である。しかし一つ一つを解明しない限り無疑問の世界から脱却出来ない。この様な信念の下に様々な漢方薬について解明を進めて来た。その中で成功したと自負出来る業績が幾つかある。茵蔯蒿湯の肝細胞庇護作用の主体が山梔子の成分であるゲニポシドにあること。瘀血改善剤である桂枝茯苓丸には微小循環改善作用と共に抗炎症、抗動脈硬化作用があること。また古来インフルエンザ類似疾患の治療薬として汎用されてきた麻黄湯には抗ウイルス作用があり、その活性物質は麻黄のエピカテキンと、桂皮のケイヒアルデヒドによることを明らかにした。しかし漢方薬の持つ多面的効果は多数のアッセイ系の動員を待たなければならない。次の世代の継続的な努力に期待したい。

一方、臨床的には、かつて漢方が歴史的に経験しなかった事態への新たな取り組みが求められた。例えば外科手術後の不具合への対処、抗ガン剤の副作用への対処などである。また、漢方薬は本当に効くのかという疑問に対して無作為化臨床試験も試みた。

漢方と西洋医学は全く異なったパラダイム（思考の枠組み）である。従って西洋医学のパラダイムに凝り固まっている頭脳では漢方は理解しにくい。当然である。しかしパラダイムが異なるからこそ西洋医学的に対応が困難な不具合に対処出来るのである。西洋医学という縦糸だけでは布は織れない。漢方という横糸があって初めて布が織れるのである。私達、医療人が目指すものは主義主張の闘争ではない。患者に対して心身両面から最善の医療を施すことであり、これを「医道」と言うのである。東西両医学の和諧が臨床の場で実践できる国はわが国を措いて無い。和漢診療学は今後の医療の中で大きく育って行かなくてはならない。その為には基礎と臨床とを問わず絶大なお力添えを頂かなくてはならない。惜しみないご助力、ご支援をお願いする次第である。

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究集会、ゐのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。

各地ゐのはな会だより

習志野ゐのはな会

平成21年11月12日

習志野第一病院会議室で環境影響生化学教授、鈴木信夫先生をお招きしてご講演を行いました。内容は信州ゐのはな会での活動状況、記念事業寄付金がことの他集まりが少ないなかでも同窓会館再建計画が着実に進んでおり、数年後は完成すること、オンライン会報の紹介とインターネットでの接続の実演、政権が変わりさらに予算面で厳しくなることが予想されることなどを述べられました。

会場をレストランキャラバンサライに移して懇談会を行いました。栗原伸夫（昭38）会長挨拶では「千葉県ゐのはな会で困っているのは、若い先生方が会に無関心になり参加者が少なくなっている、社会をよりよい方向に導くためには、参加して意見を述べることが重要です。」と述べられました。つぎに新入会員の紹介と出席された先生方が近況を報告されました。斉藤裕康（昭39）は「新型インフルエンザが増加して、今後ワクチン接種が始まりさらに多忙になっている、政権が変わりこれからどうなるのか心配です。」隆元英（昭50）は「新型インフルエンザワクチン接種では、かかりやすく重症化しやすい子供たちを先にと考えず、自分が先だと自己中心的行動をとる人が多くなっているのは残念なことです。」久しぶりの同窓に逢い、和気藹々と杯を重ねるうちに、皆学生時代の同窓会館の思い出やクラブ活動での厳しくも楽しい思い出がよみがえり、会話が尽きることがありませんでした。今回も会場を提供してくださった三橋稔（昭35）先生に感謝いたします。

出席者右から

前列：三橋繁（平4）、斉藤裕康（昭39）、蒔田順子（昭51）、増田善昭（昭35）、三橋稔（昭35）、鈴木信夫教授、栗原伸夫（昭38）、山本和夫（昭51）、多田弘子（平9）、野本泰正（昭38）

後列：木下知明（平2）、細井湧一（昭44）、小林智（昭58）、神崎頼仁（昭46）、大木健資（昭40）、山森秀夫（昭47）、隆元英（昭50）、堀部和夫（昭52）

写真にないが砂田荘一（昭55）、中村伸一郎（昭63）参加。

（堀部和夫）

安房ゐのはな会総会

平成21年10月2日（金）、安房ゐのはな会総会が鏡ケ浦に面した「たてやま夕日海岸ホテル」にて開催されました。千葉県でありながら房総半島の南の端に位置する安房地域では千葉大出身者が減少傾向にありますが、今回は千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学教授の松原久裕先生を華やかにお迎えすることができました。

総会は、議長の関谷信平先生の発声から始まりました。本位田泰介会長の挨拶があり、平成20年度会計報告も承認されました。新人の塩入誠信先生の紹介がありました。その後、本位田先生から会長の辞意表明があり場内騒然となりましたが、本位田先生が後任に青木謹先生を推薦され満場一致で承認されました。

その後、松原教授から「消化器癌最新の治療」と題したご講演をいただきました。千葉大学第二外科6代目の教授になられたこと、大学の新棟や旧病院のこと、食道癌に対する二外科伝統の3領域郭清から始まり重粒子線治療まで、胃癌・大腸癌の話など幅広くお話くださいました。その中で、手術後肺合併症の予防に、1日5回以上の歯磨きが有効であったという話には専門領域を超え皆納得していました。

その後の懇親会は和気藹々に進み話が尽きることはありませんでした。松原教授と同級生であった林宗寛先生から教授へのお礼と中締めの挨拶があり無事終了しました。その後、元気な者達は夜の街に繰り出していきました。

出席者右から

前列：林宗寛（昭60）、原久彌（昭34）、西川義明（昭34）、本位田泰介（昭28）、松原久裕教授、青木謹（昭36）、関谷信平（昭38）、水谷正彦（昭52）

後列：塩入誠信（平19院）、武内重樹（北里大・昭53）、渡辺啓治（昭61）、天野晋（平3）、辻博勝（平2）

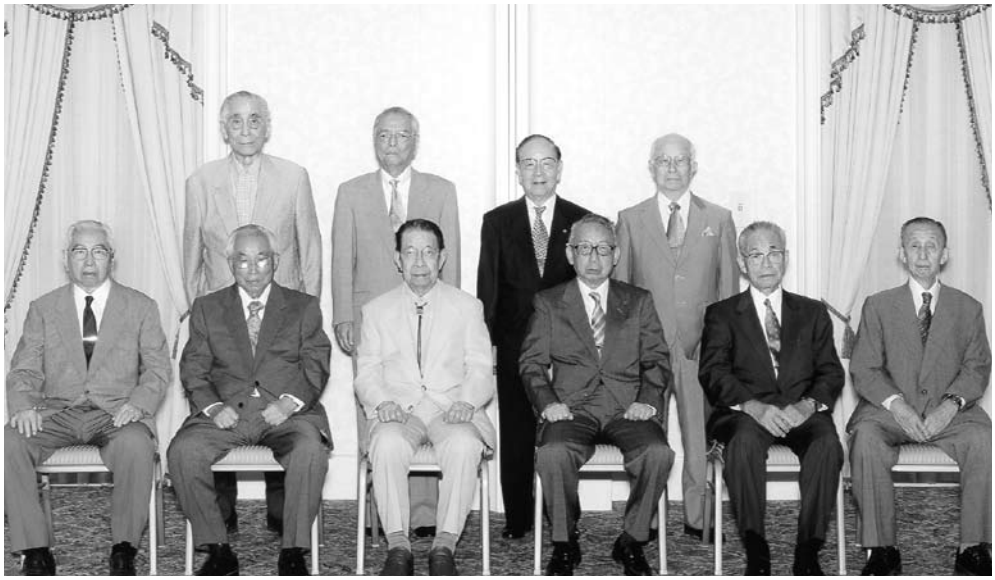
ほか　伊賀寧（聖マリ医大・平2）、相正人（島根医大・平9）　（水谷正彦）

水谷正彦先生は、平成22年4月1日より、安房地域医療センター（旧安房医師会病院）の院長に昇任されております。　（編集部）

クラス会

もぐら会（昭23）

卒業から何年経ったか何歳になったかは忘れることとしよう。例年9月頃に開かれるクラス会、今年もと



もかく元気な仲間が集まった。出席者は大久保、九島、柴田、杉山、多賀谷、奈良、前田、宮崎、吉岡、板垣、上野の諸氏11名、杉山君などは新潟からの出席だ。この1年に亡くなった石川洵君、伊藤力君のご冥福を祈りその後乾杯、近況、雑談と時の移るのを忘れて話に花を咲かせた。もぐら会の会合も世話役を引き受ける者が居るうちは続けるということで次回は平成22年9月25日午後4時場所は同じく工業倶楽部で開催と決まった。幹事は若者の柴田と上野、サポートは前田、板垣ということだ。また来年楽しい雑談の種を沢山持ち寄って会いましょう。

出席者右から
前列：前田裕、宮崎隆次、上野高次、板垣修造、大久保欽司、奈良四郎
後列：吉岡宏三、柴田鐵郎、九島璋二、多賀谷譲
（杉山静也氏は遅れたため写真には入っていない）
（上野高次）

六葉会（専24）

平成21年度は一つの節目でもある卒後60年を記念して六葉会同窓会を10月25日（日）正午から銀座アスターお茶の水賓館で開催致しました。

昨年は、同窓生156名の過半数の方がお元気であることをご報告致しましたが、この1年間に斎藤喜雄君、石田克久君、原田経国君、久安徹君、篠本直君の5名の方が他界されたことが判り、遂に生存者は半数を割りましたので出席者の減少を心配しておりましたが定刻の15分前までに出席の返事をいただいた14名全員が集合されました。

幹事赤畑正光君より開会の挨拶ならびに物故者に対する御冥福を祈るお言葉をいただき全員で黙祷をささげ更に会計報告がなされ全会一致で承認をいただいてから、神山一郎君の発声により乾杯をして宴会に入りました。

久し振りに出席された木村強君、霜島正雄君、鈴木隆君などをはじめとして出席者全員からテーブルスピーチをいただきました。殆んどの人が何らかの故障をもっていて自然と病気の話になりましたが、現在までに現役を引退した人は数名にすぎず、殆んどの人が何らかの形で現役を続行中であり出席者の

1/3の人は毎日医療に従事していることが判りました。又現役を引退しても単なる隠居ではなく趣味として絵画をやっている人、謡をやっている人、陶器の焼物を始めた人など全くたのもしい限りでした。

なごやかにスピーチをしているうちに、予定時間をはるかにオーバーしてしまい、3時すぎに来年度も本年度と同様の条件で開催を計画して案内状を出すこととしました。平成21年度の案内状で35名の方々が体調不良のため欠席されましたので、次年度には出席者の著しい増加は期待できないかも知れませんが、10名以上の出席のご返事をいただいた場合には開催を続けることと致しましたので多数の方のご出席をお待ち致します。

出席者右から
前列：大橋平治、石井克巳、村磯旺嗣、山川晋吾、霜島正雄、福山正臣
後列：徳政義和、郡司宗文、神山一郎、木村強、太田廣三郎、米川潔、赤畑正光、鈴木隆
（徳政義和）

山紫会（昭34）

平成21年11月8日（日）、晴れ。山紫会卒業50周年記念級友会が、ホテルニューオータニ幕張で開催された。卒業79名、物故15名、現在64名の級友のうち、昨年につづき33名50％の出席となった。思い出の亥鼻を巣立って半世紀、まずは会がこれまで行った記念事業について報告させて頂きたい。

昭和55年（20周年）大学病院前庭で「百合の木」の記念植樹が行われた（原澤寿三男君苦労）。その樹は級友全員の名を刻んだ記念碑に寄り添うように、30年の風雪に耐えて今も健在である。五十嵐正彦君が責任編集した記念アルバムには、恩師の中山恒明、三輪清三、竹内勝、北村武、川喜田愛郎、小林龍男、柳沢利喜雄名誉教授の若々しいお姿が、また級友家族の沢山の笑顔がみられる。

平成元年（30周年）レスターキングの名著「The Growth of Medical Thought」を、クラス全員で共同翻訳した。総指揮をとった舘野之男君は、それぞれに個性的で癖のある78名の楽団員を一つにまとめて、交響曲「医学思想の源流（西村書房、1989）」を演奏した。このときの柳田昭二君の翻訳は、同君の遺稿となってしまった。

霜柱同じ影をもつ同期生
ゆきを

この本は、千葉県医師会学術奨励賞を受賞したが、川喜田愛郎先生から過分のお褒めの言葉を頂戴した。

「……さまざまに専門を異にするクラス会の全員が協力して翻訳を分担した。このだれがみても無謀な企てに日の目をみさせたクラスのみごとな統制……」（「医学のあゆみ」Vol. 152. No. 9. 1990. 3. 3）。

さて、今回の50周年記念会は、3部構成で行われた。第1部は、デジカメによる有志の越し方50年の物語をスライドショー。第2部は洋食をはさんでの卓話。第3部は二次会ホテルバーC&Cにおける本音のシンポジウムの語り合い。

演者の話しは、研究、国際学会、診療、医師会活動、ボランティア活動、家族、趣味に及んだ。坂田早苗君が川名正直君遺作のプロ級の壷を持参し披露してくれたが、原久彌君のスライドが一際異彩を放った。多年にわたり世界各地の秘境を訪れては原住民にとけ込み『ここにこそ本当の人間がいる』と、人種の壁を越えた人間の笑顔を、迫力のあるショットで届けてくれた。そして「笑い」こそ最も安価にして安全な、患者と医師のコミュニケーションを促進する「秘薬」であることを、同君は日常の診療で証明した。

われわれが卒業した頃、わが国にはまだ国民皆保険制度はなかった。学生でも白衣を着ていれば「先生様」と言われ、白昼堂々とインターン生が医療行為を行っていた。国立がんセンターを創建した池田勇人首相が、いまでは治癒率の高い喉頭がんで亡くなられたのも、その頃である。昨今、医療崩壊が声高に叫ばれているが、崩壊すべき医療はそのときまだ日本には存在していなかったのである。

あれから50年、「積極的自由」のもと、わが国の医学・医療の分野でそれぞれに自己を実現して、いまここにこうして皆立っている。いや、後期高齢者となった現在も、『日夜医療や介護に情熱を傾ける人』、『臨床教授退官後乞われて赤字病院の再建に力を注ぐ人』、『看護学校を創設し看護教育に挺身しながら大病院を経営して高度な医療を展開している人』、『NPO法人で社会貢献に努める人』、『重度脳梗塞の障害を負いながらも文筆活動で必死に国民を啓蒙している人』、初心を忘れることなく、驕ることもなく、プロフェッショナルの職分を一心に全うしようとしている姿勢がそれぞれにあった。

稽古は強かれ、
情識は無かれ
初心忘るべからず
（世阿弥）

残念ながら今年は、原澤寿三男君、佐々木輝幸君が鬼籍に入られた。30周年記念の立て役者舘野之男君が病に臥し、多田富雄君も鎖骨骨折により急遽欠席となった。（最新刊「ダウンタウンに時は流れて　集英社」は情感溢れるヒット作である。）そしてその多田君が、秋の叙勲で「瑞宝重光章」に輝くという明るいニュースもあった。誠に慶賀に堪えない。今回病のため欠席された諸君ともども、両君のご快癒を祈念する。

幹事の松本博雄君、神田芳郎君、谷嶋俊雄君の労を多とします。特に50周年記念会の万端を仕切った谷嶋俊雄君には、満腔の謝意を呈したい。

写真右から
前列：小松崎篤、津金澤督雄、松本博雄、清水順三郎、紅露恒男、鈴木博孝、神田芳郎、遠藤幸男、藤田昌宏、西原浤
中列：吉川保雄、高橋功、塩川喜之、長尾佳子、清水精子、飯田暢子、吉井功、植村研一、永井順、横山宏、片山純男、原久彌、齋藤篤、谷嶋俊雄
後列：横山哲夫、矢野柾多、坂田早苗、野口徹男、松原保、小林充尚、石川尭夫、飯田静夫、伴野恒雄
以上敬称略。
（吉井　功）

山麓会（昭36）

10月24、25日と山麓会（昭36）が秋深まる信州諏訪で、滝沢英夫、山角博、塚原重雄の幹事のもと開催された。24日3時に集合し諏訪の酒蔵巡りをし、利き酒でホロ酔いになり、6時半から全員ホテル浜の湯に集合し塚原が幹事を代表し歓迎挨拶、亡くなられた中川康次、稲葉和也、国安芳夫の三人のご冥福を祈り黙祷した後、宴会に入った。全員で34名の参加者があり、年々奥さん同伴者が増え今年は8組で、いい傾向である。それぞれの近況報告の後、来年は岡田信道君が幹事で中部地方開催が決まった。また再来年は千葉在住者が中心となって卒後50周年を盛大に千葉でやろうということで一致した。

翌日25日、ゴルフ組と観光組に分かれ、ゴルフ組は諏訪湖カントリーで、観光組は諏訪大社、霧ケ峰ヴィーナスライン、尖石遺跡縄文考古館、北沢美術館、スワガラスの里と、それぞれ秋の信濃を楽しんだ。たまたま諏訪湖一周マラソンで8,000人もの参加者があり交通規制等で予定を変更せざるを得ないところもあった上、お二人が転倒して怪我をするハプニングがあったが、無事来年の再会を約して、茅野駅で解散した。

写真右から
前列：田部井夫人、三宅伊豫子、副島訓子、今野昭義、岡田信道、長谷川幸子、小越章平、川村光毅
2列目：田部井徹、桧山輝男、野尻雅美、吉井逸郎、大川治夫、小越夫人、小野沢君夫、青木謹
3列目：小野沢夫人、塚原夫人、松本生、小池宏之、淵上隆、谷合明、青木夫人、瀧沢英夫
4列目：今野夫人、野本一男、藤塚夫人、塚原重雄、藤塚立夫、長谷川修司、近藤省三

（塚原重雄）

45クラス会（昭45）

45年卒クラス会は毎年7月下旬の酷暑時期、土曜日にホテルオークラ東京にて開催していましたが、諸般の都合により2年ぶり、9月26日（土）に卒後40年を記念し開催しました。

今回のクラス会の出席者も例年と同様30名前後で顔ぶれに変化がないのが残念でした。我々のクラスは大学紛争の混乱のため、千葉組、東京組に分裂し、約6ヶ月の講義ボイコット（ストライキ）の末に昭和45年3月31日卒業しました。卒後約20年は大学紛争の蟠りのためクラス会は開催しませんでした。寺澤捷年、小俣政男、済陽高穂、堺常雄氏らが世話役となり、約10年前より定期的に開催されるようになりました。現在、我々は還暦を修了し、前期高齢者を迎える年齢になりました。仕事、趣味、運動、家族について全員に話してもらいました。

子供より孫の話に熱が入るようでした。2次会は例年と同じでホテルオークラ別館1階「バーハイランダー」で健康、年金、将来等について語り合いました。来年は東京組が当番です。

出席者右から
前列：堀内正敏、渡邉義二、アントニー・ジョセフ、ナポレオン、榎本純子（旧姓松本）、細山公子（旧姓入江）、花輪孝雄
2列目：伊藤文二、林泰、古川隆男、永岡喜久夫、天神弘尊、新井裕二、篠原信賢、榎本正満
後列：長谷川毅、橋本英明、堺常雄、石場俊太郎、中山章、湯原幹男、伴野悠士、中野雅行、菅ケ谷純弘、杉山吉克、堂後昭彦、済陽高穂

（渡辺義二）

四一七会（昭41入・昭47卒）

亥鼻山における青春の一時が、その後の人生の歩みと共に希薄化する中で、わずか数時間の中に凝集化され再現化されるもの、それがクラス会であり同窓会でしょうか。四一七会は昭41入学者と昭47卒業者とが集う再演の場です。しかしながら、還暦を過ぎ、第2あるいは第3の人生を歩み出した者の多い集団でもあります。従って、話題の中心テーマは、想い出を呼び起こすというよりは、第2・第3の旅の助走への決意となりがちでした。そのような心情の吐露は、会場が八芳園という結婚式場でもあることで、より高揚したのです。

その高鳴りを晴天の園庭へと導き、一人一人が納まったものが、掲載の集合写真です。再び相まみえることを誓っての刻印とし、カメラのシャッター音に引きずられるが如く時の流れの中へと再び歩みを続けて行くのでした。すでに千の風となったクラスメートへの想い出と共に。

ところで、今回の会も、新たな歩みを未だ3年後へと引き延ばしている3名（鈴木信夫、長尾啓一、西野卓）が、これまでの会と同様、幹事を務めた次第です。なお、次の方々も参加表明をしていただいた先生方です。

旭俊臣、安倍和男、岡信男、大和田哲夫、加藤誠、鈴木洋文、松島保久

写真右から

前列：榎本貴夫、鈴木光二、中嶋征男、山森秀夫、稲葉憲之、鈴木信夫、西野卓、長尾啓一、菊地友充、大塚薫

二列目：鈴木明、石川詔雄、大崎逸朗、猪股弘明、大野一英、松川正明、近藤春樹、北沢栄次、大西久仁彦

三列目：塩田敬、坂本昭雄、鍋島誠也、豊田敦、西川哲男、広瀬彰、伊藤文憲、大橋浩文

最後列：田井東風、渡辺滋

なお、今回の四一七会の模様は、オンライン会報にて動画で配信をしております。IDとパスワードを同窓会事務局より入手の上ご覧下さい。

（鈴木信夫）

日本医師会新役員

代議員会副議長
藤森　宗徳（昭37）

理事
井上　雄元（金沢大・昭39）

常任理事
石川　広巳（昭55）

裁定委員
鈴木　弘祐（日本大・昭39）

日本病院会

会長
堺　常雄（昭45）

千葉県医師会

会長
藤森　宗徳（昭37）

副会長
井上　雄元（金沢大・昭39）
田那村　宏（慈恵医大・昭42）

理事
森本　浩司（富山医薬大・昭62）
鎌田　栄（金沢大・昭52）
篠宮　正樹（昭50）
李　笑求（延世大・昭57）
三枝奈芳紀（信州大・昭57）
宍倉　朋胤（旭川医大・平4）
田畑陽一郎（昭46）

監事
守　正英（慈恵医大・昭44）

代議員会議長
杉岡　昌明（昭37）

代議員会副議長
伯野　中彦（昭37）

地区医師会長

習志野市医師会
堀部　和夫（昭52）

旭市医師会
浜　年樹（昭50）

匝瑳医師会
橋場　永尚（昭44）

山武郡市医師会
田畑陽一郎（昭46）

君津木更津医師会
青柳　博（昭49）

市原市医師会
志村　寿彦（昭44）

千葉大学医師会
田邊　政裕（昭49）

千葉県下国立病院医師会
吉田　孝宣（昭46）

第34回ゐのはな美術展開催

石谷治彦（昭24）

第34回　ゐのはな美術展　出品作品

2009.10.5（月）～11（日）
銀座ギャラリー　向日葵

	氏　名	卒業年	作　　品
1	島田　哲男	昭41	①裸婦　②裸婦　③裸婦
2	榎本　貴夫	昭47	①養老渓谷（粟又の滝）　②千鳥ヶ淵　③薔薇
3	神山　英明	昭22	①フルダ（ドイツ中部の都市）の館の中にあった活け花
4	漆原　昌人	昭40	①自画像
5	山川　晋吾	昭24	②ローマの広場にて
6	宮下　久夫	昭38	③伊勢湾憧憬
7	石井　郁夫	昭26	①裸婦と向日葵　②秋の収穫　③花（ハロストロイデイア）
8	関根　博	昭26	①チューリップ　②般若
9	川村　孝子	昭36	①休息　②休息
10	柴崎　晃	昭28	①待春（妙高）　②我が家の秋
11	加瀬　幸雄	昭22	①怒涛　②涼　③憩
12	石谷　治彦	昭24	①夕景　②秋色
13	伊藤　進	昭26	①向日葵　②深大寺門前　②浴衣
14	野口　眞利	昭40	①ダヴォスの坂道　②レストラン　③モンマルトル
15	吉川　広和	昭40	①那須連山“早春”

◎不出品者　今井　力（昭22）・酒井忠昭（昭42）・内田邦明（昭47）
（順不同）

21年度会計報告

21年度収入	
同窓会賛助金	200,000
会員出品料　15名	375,000
計	575,000
21年度支出	
画廊使用料	440,000
案内ハガキ印刷	
通信・連絡、用品等	100,000
懇親会（会場）	38,000
山口先生御花料	20,000
計	598,000

平成21年12月25日現在

連絡先：
ゐのはな美術展事務所
〒169-0075
東京都新宿区
高田馬場1-25-29
石谷医院内（石谷治彦）
電話　03-3200-0078
FAX　03-3200-0253

展覧会場：
銀座　ギャラリー向日葵（ひまわり）
〒104-0061
東京都中央区
銀座5-9-13
中村ビル2F
電話　03-3572-0830

本年（2010年）も同画廊で第35回ゐのはな美術展を開催する予定です。

千葉大学医学部水泳部 創部50周年記念祝賀会開催

千葉大学医学部水泳部創部50周年記念祝賀会は、平成21年9月5日（土）16：00～19：00、SKY WINDOWS東天紅にて開催された。出席者は、OB108名、現役部員46名、計154名が集い盛大に行われた。

高橋淳（昭55）幹事の開会の辞に続いて、発起人代表の青木謹監督（昭36）、勝田貞夫OB会会長（昭37）の挨拶で開会した。橘正道名誉顧問（東大昭29）、伊藤晴夫名誉顧問（昭39）の御祝辞を戴いた後に、OBを代表して伊藤達雄先生（昭42）、野村馨先生（昭48）、河合祥雄先生（昭50）から創部当時の懐かしい昔話を交えた挨拶があり、稲葉憲之先生（昭47）の乾杯で祝宴となった。大いに昔話に盛り上がる中、各世代を代表するOBの挨拶、現役部員からの挨拶があり、テーブルを超えて談笑する各世代OBの姿が各所に見られる中、楽しい一時が瞬く間に過ぎ、4組に分かれての記念撮影（写真：山岸一貴先生〔平20〕撮影）をし閉会となった。水泳部の思い出を語りつくせなかった者は、二次会の甘太郎で心行くまで語らい心に残る会となった。

＊当日上映したスライドショーをhttp://virology.m.chiba-u.jp/users/isui/で見られます。ユーザ名：chiba、パスワード：isuiでご覧下さい。

文責　白澤浩（昭57）

研修プログラム

臨床系教授による研修プログラム

千葉大学臓器制御外科学

教授　宮﨑　勝（昭50）

臓器制御外科学教室（旧第一外科学教室）に入局後の外科研修プログラムを紹介させてもらいます。初期臨床研修の2年間を終えた後に外科医を希望する医師が入局する訳ですが、その研修プログラムは入局後はまず日本外科専門医取得のための前期外科研修General Surgery Training（4年間）があります。次いでAcademic Surgical Trainingとしての大学院研修（4年間）を行ってもらい、その後更にAdvanced Subspecialty Surgical Trainingとして後期研修（2年間）に分かれています。General Surgery Training前期研修4年間では、1年目（GST-1yr）に6ケ月～8ケ月の大学病院での外科研修を行った後、関連病院での外科研修を4～7ケ月間受けます。2年目から4年目（GST-2-4yr）までの3年間は、すべて関連病院での全ての一般外科領域の外科研修（消化器外科を中心とした）を原則として、1年毎に病院を移動して研修を受けます。この前期研修4年間で日本外科専門医を取得すべく外科手術症例経験は充分に満たすことが出来、前期研修修了時には全員外科専門医を取得してもらいます。その後のAcademic Surgical Trainingは主に臨床系大学院生として大学病院にて肝胆膵外科あるいは乳腺甲状腺外科臨床に従事しながら、助教以上の教官の指導下に臨床研究を行います。終了時までに英文論文を仕上げてその間国内国外の学会発表もしてもらいます。また、その後のsubspeciality専門医取得および将来の外科指導医資格取得に必要な論文（邦文含めて）も作成するように指導していきます。大学院期間には臨床外科医として必要な最低限のAcademicな臨床での科学的姿勢および臨床研究方法を身につけてもらいます。もちろん大学院卒業時には学位取得もできます。その後の後期研修2年間では再び関連病院にての外科研修blush-upとして副医長（時に医長）レベルでのスタッフとして勤務してもらいます。ここで外科各領域のsubspeciality専門医（消化器外科専門医、乳腺専門医）の取得を出来るレベルに到達してもらいます。この様に前期GST研修、大学院AST研修、後期AST研修の4－4－2の10年間で外科研修プログラムが終了され外科専門医、医学博士、およびsubspecialityの消化器外科専門医あるいは乳腺専門医を取得することができます。また、大学院の4年間において希望する場合には基礎系教室においての基礎研究に2年間従事することも可能です。また入局学年に一人ないし二人程度の者は、大学院の間あるいはそのあとの後期研修の間に研修を延期して海外大学（主に米国）での研究生活（2－3年間）を送ってもらっています。また現在ギリシャアテネの病院への臨床研修留学も1年間の期間で交代で主に大学院生の外科医に行ってもらって研修してきてもらっています。

現在教室の臨床研究の大きなテーマは肝胆膵外科臨床においては、切除が困難といわれている肝門部胆管癌、膵癌さらには原発性および転移性肝癌、胆道癌の外科治療を研究対象に様々な観点からの研究を行っています。また生体肝移植術も積極的に施行しておりその外科手術の研究も行われています。乳腺甲状腺外科研究では特にDCISを中心とした診断治療法の開発、乳ガン治療の個別化治療の開発を主たるテーマにして研究を進めています。

若い外科希望のやる気のある医師は、是非我々の教室に入局してもらって優れた外科技術と外科知識を獲得してacademic mindも持ち合わせて新たな外科の発展を世界的にリードできる優れた外科医となっていただきたいと願っています。

基礎系教授による研修プログラム

千葉大でPhysician-Scientistを目指しましょう

千葉大学遺伝子制御学

教授　中島　裕史（宮崎医大・昭63）

近年の分子生物学の進歩により、アレルギー・自己免疫疾患など難治性免疫疾患の分子レベルでの病態解明が進みつつあります。そしてこれらの研究成果をもとに、生物学的製剤が臨床応用され、一部の疾患でその予後は劇的に改善されました。しかし、いまだアレルギー・自己免疫疾患患者の多くは、非特異的、且つ重篤な副作用を伴う可能性のあるステロイドや免疫抑制薬による治療を余儀なくされています。このギャップを埋め新規治療法を開発するためには、基礎免疫学と臨床免疫学との距離を縮めることが必須であり、遺伝子制御学および附属病院アレルギー・膠原病内科の果たすべき役割の一つが、そこにあると思います。臨床医学から基礎研究／基礎研究から臨床医学の双方向性の流れを活発化することにより、免疫学の進歩に貢献して行きたいと考えています。

ここ数年、Physician-Scientist（研究をおこなう臨床医）の重要性が再認識されています。その理由として、(1)医学研究における優れたインスピレーションの多くは患者の診療から生まれること、(2)臨床と基礎研究とは不可分であり、臨床と基礎研究の両者を理解した研究者の着眼点が重要であることがあげられると思います。加えて、(3)研究をする事により、診療で得られる喜びとは異質の喜びが得られること、(4)研究をする事は、臨床医としての成長にも大きく役立つことなど、Physician-Scientistを目指すことは個人的なメリットも大きいと思います。

我々遺伝子制御学／アレルギー・膠原病内科では、難治性免疫疾患に関して一日でも早く、一人の患者でも多く助けるという目標を達成するため、志を同じくするPhysician-Scientistを一人でも多く育成したいと思っています。「和」を研究室のポリシーとし、喜びと誇りをもって仕事ができる環境を作っていきたいと思っています。研修医の皆さん、医学生の皆さん、是非、千葉大で（できれば遺伝子制御学／アレルギー・膠原病内科で）、我々とともにPhysician-Scientistを目指しましょう。きっと明るい未来が待っていると思います。

インターネットによる同窓の絆づくり

千葉大学校友会ＳＮＳ
(Social Networking Service)

キュリオ“Curio”をご存じですか？

詳細・登録方法については、下記のサイトをご覧ください。
http://www.chiba-u.ac.jp/sns.htm

千葉大学 SNS Curio

千葉県救急医療センター

センター長・千葉大学医学部臨床教授
小林　繁　樹（昭54）

千葉県救急医療センターは、全国的にも数少ない独立型の第三次救命救急センターであり、本年で設立から30年を迎えます。循環器科、脳神経外科、神経内科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、形成外科、麻酔科、集中治療科等各分野の約40名の医師が365日、24時間体制で千葉県全域を対象に心筋梗塞、脳卒中、大動脈疾患、頭部外傷、多発外傷、急性腹症等の重症救急患者の診療にあたっています。また、県内唯一の高度救命救急センターとして広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊救急疾病患者の救命救急医療も行っています。

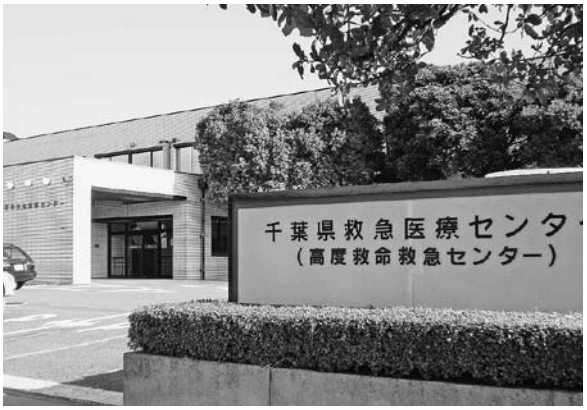
病床は、集中治療室が20床（うち2床は熱傷ユニット）、一般病床が80床（うち6床は脳卒中ケアユニット）の計100床です。

各分野の専門的あるいは先進的医療、低侵襲医療を救命医療に積極的に応用する、というのが基本姿勢であるため、いわゆるER型の救命センターとは異なり、患者さんの約40％が他の医療施設からの紹介転院、また約40％が救急隊やドクターヘリからの直接搬送です。年間に約2,300人の重症救急患者さんが入院し、手術、カテーテル治療、内視鏡治療等が約2,100件行われています。また、最近救急医療体制の崩壊が大きな社会問題となり、メディアを騒がせていますが、県立の救命救急センターとして、県内各地域の救急医療が抱える問題を分析し補填する役割も重視し、昨年から東葛南部地域の救急コーディネート事業も開始いたしました。

もう一つ力をいれているのが災害医療です。自然災害のみならず、飛行機事故・列車事故・高速道路上での多重衝突事故・爆発・テロ・化学災害等の人的災害にも対応可能な施設をめざして、DMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害医療派遣チーム）も2隊編成し、また千葉市消防局や千葉西警察、市立海浜病院の参加・協力も得て大規模な広域災害対応訓練も毎年行っております。

また学会活動も盛んで、診療が忙しいにもかかわらず国内外の学会に多くのスタッフが参加し、日頃の成果を発表しており、多数の学術論文も発信しています。

卒後臨床研修に関しては、このような施設の特色を活かした研修を行っています。すなわち、初期研修においては千葉県立病院群として、2～3ヶ月の救急研修を行っておりますし、後期研修では、救命センターでありながら14学会から研修施設として認定され、各科の専門医、指導医を中心に質の高い研修を実施しています。千葉大学からは、後期研修の一環として循環器科、脳神経外科、整形外科、麻酔科の先生方が精力的な研修をしています。また救急医学や集中治療医学、脳神経血管内治療などを学ぶ目的で国内のいろいろな地域から多くの若い先生方が勉強に来られています。



このように、千葉県救急医療センターでの研修では、重症多発外傷や種々の救急疾患の初療のみならず、心血管系、中枢神経系あるいは消化器系などの重症症例あるいは急性期症例を豊富に経験し、その診断、治療について専門医から集中的かつ多面的に学ぶことができます。また、集中治療室においては、呼吸・循環を初めとする全身管理から、血液浄化やPCPSなどの高度な管理まで勉強することも可能です。あなたも意欲に満ちた先輩のもとで、密度の濃い研修をしませんか？

千葉市立海浜病院

院長・千葉大学医学部臨床教授
廣瀬　彰（昭48）

当院の開院は千葉市の第2の市立病院として昭和59年10月でした。初代院長の故久保政次先生（昭13）は当初より病院のモットーとして「納得のいく医療・Informed consent」を示してくださいました。これは千葉大学附属病院の病院長をしていた昭和51年に先進国では医療訴訟が多いというので調査のため米国へ行った時、著名病院ではすでに調査や研究がされていて、今後日本でもInformed consentの内容を知ることが絶対に必要となることを述べていました。先生が示された「納得のいく医療」は現在では病院の理念となって引き継がれています。昭和61年には病床数301床・16診療科でフルオープンとなり、現在では各種学会の認定施設となっています。今回は当院の小児関係のことについて一部紹介します。

新生児科ではNICU 12床・GCU 30床合わせて42床で総合周産期センターと同等レベルの病床配置となっています。小児科では現在48床で年間1,400人を超える急性期疾患の入院患者を診療しております。小児科では土曜日に入院が集中し、時には10名に及ぶ入院を受けることもあります。開院以来両科では365日の日当直体制で診療に臨んでいます。またこの数年は院内保育所にお子さんを預けて外来診療を担当していただいている女性医師の協力も貴重な支援となっています。今では公開カンファレンスの開催はどこの病院でも日常的なことになりましたが、当院では昭和61年に当時の小児科の鳥羽剛副院長（昭38）と大濱博利小児科医会会長（昭27）の発案により病院と地域の先生方との交流・研鑽の場として小児科から始まりました。この公開カンファレンスも回を重ね平成21年末には193回目となりました。この会は主に紹介患者の症例提示を主体としており、今では研修医を含めた若年医師にとってはレジュメを自分で作り症例を発表する貴重な場となっています。

また当院での卒後初期臨床研修は千葉大学卒後初期研修プログラムA、B、産婦人科、小児科プログラムの協力型研修病院となっています。後期研修については内科を始め数科で計4名の定員で募集しています。21年度は1年間の初期研修は4名ですが、小児科には千葉大学より2ヶ月間の小児科研修10名、県立病院群から1ヶ月間の4名の産科

研修を受け入れています。後期研修については内科・小児科各1名でした。22年度は初期研修6名の予定ですが、内訳は小児科、産婦人科プログラムの研修医も含まれています。後期研修は内科2名・小児科3名が研修の予定です。必修科目である内科、外科、救急・麻酔科をローテートすることが基本となるが、比較的小規模病院では科を超えたコミュニケーションがあるので関係する科には容易に相談できるようになっています。また救急部門がないので診療科で救急患者を受けた場合には研修医を呼ぶことになっています。昨年5月から電子カルテシステムがスタートし症例のフォローを含めた個々の患者検討については端末があればどこでも検索できるようになり、研修の質が高まりました。また小児科では後期研修の一環として2年間の小児科研修後に新生児科研修も引き続いて行われていますので小児科を志す医師にはお勧めです。

現在、千葉大学からは副院長：宇津木誠（昭51）、診療局長：太枝良夫（昭53）、内科：菊池典雄（昭49）、北和彦（昭59）、斎藤博文（昭63）、浅川雅透（平7）、小南聡志（平9）、長谷川敦史（平11）、薄井正俊（平19）、小児科：阿部克昭（平13）、新生児科：鈴木康浩（平4）、外科：吉岡茂（昭63）、外岡亨（平9）、西田孝宏（平17）、整形外科：坂本雅昭（昭60）、東秀隆（平6）、橋本将行（平7）、守屋拓朗（平14）、心臓血管外科：中谷充（昭58）、仁科洋人（平14）、産婦人科：松本玲子（昭57）、高野始（昭62）、飯塚美徳（昭63）、野口美香（平12）、耳鼻咽喉科：嶋田耿子（昭54）、原佳奈子（平5）、麻酔科：浅野秀文（昭59）、箕輪百合子（平6）が在籍しております。青葉病院とあわせて市内には二つの市立病院がありますが、平成23年度からは公営企業法の全部適応に移行予定となっています。

亀田メディカルセンター
（亀田総合病院・亀田クリニック）

神経内科部長・
千葉大学医学部臨床教授　福武敏夫（昭56）

亀田メディカルセンターは1,000床の亀田総合病院と31科の外来である亀田クリニックおよび回復期リハビリテーション病院を中核とする千葉県南部の基幹病院です。歴史をたどると、亀田家は古く寛永の末頃から漢方医として医療を営み、明治維新前には蘭学を学びに国内留学する者もあり、明治の末には西洋医学の病院としての形態が整えられたそうです。現在では400人を越える医師・歯科医師と2,500人に及ぶ職員により、急性期の高度先進医療の提供に努力しています。同時に、健康管理センターから回復期リハビリ施設までも有し、さらに近隣の館山市には家庭医研修に力を入れるクリニックや関連法人による中規模総合病院があり、地域医療に広く貢献しています。

国内外から指導的スタッフを募り、その下での研修医も広く全国から有意の人材が集まり、学閥のないことが大きな特徴です。そのためか、同じ県内にありながら、千葉大学医学部との関連は薄かったのですが、2003（平15）年に縁あって私が神経内科部長として着任して以来、千葉大卒のスタッフ、研修医も増えてきました。私以外の在籍者は卒年順に、久保田基夫（脊椎脊髄外科部長：昭57）、小石川比良来（精神科部長：昭59）、高梨潤一（小児科部長：昭63）、大上俊彦（精神科：平10）、篠原翼（家庭医診療科：平15）、家研也（同：平16）、遠藤悟史（外科：平16）、薛陸景（精神科：平18）、荒木（高梨）葉子（血液腫瘍内科：平19）、友成暁子（消化器内科：平19）、中野茂樹（初期研修医：平20）です。なお、消化器内科部長の江原正明先生（昭49）は昨年松戸市立病院に院長として赴任されました。

本センターの医療の特色は、徹底した患者中心主義、壁のないチーム医療、柔軟なチャレンジ精神とまとめられます。世界に先駆けての電子カルテの導入とそれを基にした情報提供、ISO9001や病院評価機構の認定に加え、昨年日本初のJCIの認定を受け、安心安全で世界に開かれた医療施設たらんとしています。各種集中治療部門、総合周産期母子医療センター、地域難病相談支援センターをもち、間もなくがん治療センターも開設されます。

本センターでの初期研修は学生実習の延長や単なる専門医研修の前倒しでなく、「骨太の医師」を目指しています。すなわち、①しっかりした基本診療能力が備わり、②急変や集中医療の現場で頼りにされ、③幅広い外来診療能力を持ち、真摯に悩める方に向き合える医師です。そのために初期研修の「自由度」が高くなった現在でも、麻酔・集中治療、救急、総合診療に時間を割くほか、講義や手技修練のためのコアカリキュラム、指導者の下での準夜帯救急外来実習に力を入れています。もちろん、後期研修につながる、テーラーメードでトランスレーショナル（将来に向け翻訳可能）なプログラムにも配慮しています。また、米人教授が常駐し、英語のみならずオーソドックスな思考法やグローバルな観点を学べるのも特筆されます。後期研修や短期間の選択的研修も積極的に受け入れています。リゾートを思わせる明るい景観の中で、進取自由で活発な研修が送れる施設と考えます。

亀田総合病院の紹介は別途「オンライン会報」にて掲載予定です。（編集部）

最成病院

病院長・
千葉大学医学部臨床教授　鈴木孝雄（昭52）

「最成病院です」と電話で告げると、相手の交換手は「はい、サイセイカイ病院ですね」と応えます。全国展開の済生会に敵うはずはないと思いつつも、知名度を高めようと先端応用外科から平成14年に赴任以来、職員と奮闘してきました。まず当院の概要を説明します。千葉市花見川区のはずれ、印旛沼の水を引く花見川渓谷に隣接し、とても千葉市内とは思えぬ緑溢れる環境です。302床、常勤医23名、7対1の看護体制をとっています。診療科は内科、外科、整形外科、循環器科、麻酔科、婦人科などです。同窓の医師を紹介します。理事長の多田惠（昭60）、西堀知行（昭61）、甲斐教之（昭57）以上第三内科、古口由加（帝京・昭60）、渡辺栄（昭61）、真田昌彦（平元）以上第一内科、潤間隆宏（昭60）、斉藤正佳（日本医大・昭62）、亀井太美子（昭55）、新井康弘（平4）以上呼吸器内科、清水英一郎（信州・平3）、坂田治人（東邦大・平3）、藤田和恵（平9）と私、以上第二外科出身です。

さて、平成19年度から大学の2年目研修医を僅か1ヶ月間ですがお預かりしています。地域密着型の民間病院がどのような医療・介護を行っていて、どのような問題を抱えているかを体験してもらっていま

す。外科研修を2週間、残りを内科、整形外科研修とし、外科系研修と同時に麻酔科（常勤医2名）研修も加えました。自分の外科医2年目はアッペ、ヘルニアをこなし胆石、初マーゲンに挑戦といった研修でしたが、今の研修制度では無理です。しかしアッペ、ヘルニア、腸吻合などは術者をしてもらいます。更に麻酔管理、X線読影などにも取り組んでいます。3年間で11名が研修し、8名が千葉大で後期研修に入ったと聞いています。高齢で合併症を抱えた患者が殆どで、研修医にも意見を述べてもらい、一緒に悩みながら診療しています。感想を聞いてみると、一宿一飯の恩義もあり、悪いことは言いませんが実際の医療行為を他施設より体験させており評判は良いようです。研修医には積極的に医療に参加する姿勢を見せてもらいたいものです。

ところで、高齢化率の高い都市近郊の民間病院で診療していますと、保健医療あるいは社会の歪が真によく実感できます。40年以上前に開設された花見川団地に隣接しており、老人世帯ばかりです。入院を勧めても、介護している連れ合いがいるからと断られる事もしばしばです。乳がんと診断すると元気な女性は遠方の大病院を希望して行かれます。一方、消化器がんは有症状で来院する老人が殆どで、合併症を有する高度進行がんです。勿論電車に乗って大病院には行けず、外科、循環器科、呼吸器科、麻酔科が総がかりで治療を開始します。都会の大病院には若い元気な患者が集まり、地域の中小病院には高齢の重症患者が残ります。どうも話が逆さまです。戦い敗れて当院で終末期をお迎えになる患者さんも数多くいます。昨年1年間で96人のがん患者さんをお見送りしました。一般病棟でのケアは大変です。せめて、緩和ケアチームを作ってと思いますが、常勤の精神科医がチーム加算の要件で中小病院では無理です。

このように苦労も多いのですが、地域の患者さんの疾病予防、診断、治療、終末期と一貫してお世話できる環境がここにはあります。昨年の調査で、1ヶ月に花見川団地住人の何と11.4％の方が当院を受診していました。勿論、当院が地域医療に邁進できるのも、千葉大学病院はじめ同窓の先生方のご協力の賜物と存じております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

研修医だより

後期研修医より

今の時代の大学医局に若手医師として期待すること

国立病院機構千葉医療センター精神科
吉村健佑（平19）

私は千葉大学医学部を平成19年3月に卒業後、君津中央病院および千葉大学医学部附属病院にて計2年間の初期研修プログラムを修了し、続いて後期研修医（シニアレジデント）として精神神経科/こどものこころ診療部に所属しました。大学病院では、伊豫雅臣教授のご指導のもと、精神疾患に対する薬物療法と認知行動療法の基本を学びました。そして、多くの症例を経験したいという理由から、現在は国立病院機構千葉医療センター精神科にて研修させて頂いております。

さて平成16年から始まった新医師臨床研修制度がもたらしたものは研修先の自由選択です。若手医師の労働市場は一気に自由化に向かいました。後期研修先の選択肢は今や日本中に無数に存在しており、大学病院での後期研修はそのひとつに過ぎない状況になっています。

大学病院での後期研修はいわゆる「入局」を意味します。医局に属し研鑽を積むことのメリットは何でしょうか。まずは専門家の数が多く、広い分野について指導を受けることができること。次に、興味があれば学生や研修医の教育や最新の研究に参加できることでしょう。

そしてそれ以上に魅力に感じることは千葉大学の仲間と仕事に取り組むことができることです。私自身、学生時代から旧知の仲間や先輩に支えられ、現在まで医療現場で教えられたことは数知れません。特に他科に在籍する友人の医師にはいつも助けられています。また入局後に知りあった多くの精神医学教室の医師達とは現在の所属施設を超えてお付き合いいただき、臨床上の小さな疑問から将来の医師としてのキャリアプランに至るまで、なんでも相談できる環境にあります。つまりは大学ならではの広い人的ネットワークを得ることが最大のメリットではないでしょうか。

医学知識は一人でも修得できるかもしれませんが、医療はチームで実施し身につけてゆくものです。千葉大を卒業する学生達は多かれ少なかれ、同級生や部活動、亥鼻祭を通じての交友関係があり、それらは医師としての大切な財産です。千葉大の医局に属することで、診療科を超えて多くの仲間達から刺激を受けたり、切磋琢磨して知識や技術を伸ばすことができます。その点からも大学医局で研鑽を積むことを選択してよい理由になるのではないでしょうか。そして学生時代には部活等に大いに励んで多くの仲間を持つことがベストです。

一方、大学病院勤務でデメリットの一つは待遇の不十分さです。歴史的に全国の大学病院でおろそかにされていますが、例え研鑽中の身であっても収入や休日の確保は非常に大切であり、その点の充実が魅力的な職場作りとして有効だと考えます。そして平成22年4月より予算不足を理由に後期研修医の実質的な給与が昨年度比で20％も減額されたことは極めて残念であり、優秀で志の高い若手医師を多数集めるという視点から逆行したものであることを指摘したいと思います。

以上、大学医局での後期研修のメリット、デメリットを率直に述べて来ました。これから後期研修先を選ぶ学生や初期研修医には「ぜひ大学医局に入って一緒に働こう！」と言いたく、大学側に対しても変化している若手医師の職場に対する期待やニーズを的確に把握し提供できる「魅力ある医局作り」をさらにすすめて欲しいと切に願います。

最後になりますが、当科のアピールをさせて下さい。厚生労働省の患者調査においても精神疾患を持つ患者は300万人を超えて、さらに年々増加し続けており、これまで以上に精神疾患の予防・治療・社会復帰への取り組みは重大な社会的な問題となっています。多彩な能力や興味に基づいて共にこれらの問題に取り組む仲間を一人でも多く求めております。ぜひとも見学にいらして下さい！千葉大学精神医学教室へのご連絡をお待ちしています。

皮膚科での充実した研修

千葉大学医学部附属病院
後期研修医　皮膚科
秋田　文（平19）
木村　亜矢子（平19）

はじめまして。私たちは2006年度に千葉大学医学部を卒業し、現在後期研修医として大学病院で研修しております秋田文（あきたふみ）と木村亜矢子（きむらあやこ）と申します。皆さんは皮膚科というとどういったイメージをお持ちでしょうか。千葉県では皮膚科医が不足しており、私達の所には千葉県内の皮膚疾患のほとんどが集まってきます。大都市では経験できない様な貴重な症例に出会えるチャンスが千葉大にはあります。是非、千葉大皮膚科に興味を示していただければ嬉しいな、と思い普段どんな研修をしているのかを簡単に紹介させて頂きます。

皮膚科では他の診療科と異なり、研修医でも外来診療と病棟診療の両方に参加します。新患患者さんの予診をとり、自分なりに鑑別診断を考えた上で、初診担当の先生の診察に加わります。このため、自分の考え方を見直したり、多くの知識を学んだりすることができます。また、手術が必要な患者さんに対してはクリニカルカンファレンスで検討した上で、自分で入院のマネジメントから手術の助手、退院まで責任を持って担当します。予診から入院中まで一貫して担当することで、医師としての責任や患者さんとの信頼関係を築くことができるのでとても良いシステムだと思います。入院する患者さんは、半分以上が皮膚腫瘍で手術をする方です。手術は、基底細胞癌など局所麻酔でできてしまうものから、乳房外パジェット病や悪性黒色腫など腫瘍切除だけでなくリンパ節郭清も必要であり、10時間以上に及ぶ大きな手術まで多岐にわたります。熱心に手術手技を教えてくれる先生方がいらっしゃるので、1年生でも植皮術やセンチネルリンパ節生検を執刀させて頂ける機会があります。

また、当科は研究面でも充実しています。実際の臨床で出会った興味深い症例があれば様々な方面からアプローチを試みています。実際に私の経験した多発立毛筋平滑筋腫の症例に対して遺伝子検査をしたところ、世界で初めての変異を発見することができました。また、学会発表も積極的に行っています。ただ発表するだけでなく、5分という発表時間の中に自分の伝えたいメッセージをわかりやすく最大限盛り込むために、分かりやすいスライドを作り、原稿は暗記し入念な予演を行う大切さを教わりました。おかげで、まだ1年生ですがしっかりと自分の主張が伝わる良い発表ができたと自負しております。また学会発表のために学んだ知識は、次の日からの診療に役立っていると感じることができます。

このように充実した皮膚科研修の毎日ですが、なによりも自慢できる点はスタッフみんなの仲がとても良いことです。優しくて教養あふれる先生方や美しい先輩、優秀な同級生に支えられてストレスのない楽しい毎日が送れています。自分のやりたい分野も大切ですが、熱心に取り組むことで、どんなことでも面白くなるものです。素晴らしい人間関係に恵まれることも人生にとっては重要なのではないでしょうか？一人でも多くの初期研修医の先生方が皮膚科に興味を示して下さることを祈っております。

後期研修1年目を終えて

千葉大学医学部附属病院　放射線科
齋藤　真（平19）

千葉大学医学部放射線科に昨年度入局した、後期研修医の齋藤真と申します。

後期研修1年目は、大学病院の放射線科で、診断・核医学・治療のローテートを行いました。

診断・核医学では、主に読影を行っておりました。読影は、まず自分が読み、その後、上の先生がチェックを行い、読影レポートとして確定してもらうようになっており、読影の見落としや、間違いは、その都度指摘してもらい勉強するといった形で行っています。悩んだ症例や、読影でわからなかった症例などは、経過を追い最終的な答えの確認なども行っていました。

そして、毎日のように珍しい症例や、よくわからない難しい症例などがあり、週に2回ある放射線科内のカンファレンスで、そういった症例を発表して、勉強するということも行っていました。

画像診断では、自分の書いたレポートの結果が、その後、依頼してきた科で治療されることによってわかるため、レポートで指摘して病気を診断できた場合などは非常に嬉しい反面、見落としや間違いのために、治療開始が遅くなったり、余計な検査を受けさせてしまったりなどの反省症例もありました。

治療では、病棟業務のほか、初診外来、治療計画を行いました。

放射線治療は、それぞれの癌の部位で一般的なガイドラインはあるのですが、患者さんの背景（合併症・腫瘍の進展程度）によって、うまく定型的な治療を行えない場合もあり、裁量によって決まる部分もあります。また、癌の進展についても、実際の組織を確認できないので、画像をもとに原発はどこまでか、どのリンパ節は有意ととるかなど、画像診断の読影とはまた違った読影の知識が必要と思いました。放射線治療でも、週に2回照射野のカンファレンスがあり、この部分は照射野に含める、そこは照射野から削る、あるいはマージンをどの程度にするなど、自分の考え方が大事なのだなと感じました。

大学での一年間の研修では、治療・診断ともそれぞれ専門をもった先生方が大勢おり、非常によく指導していただきました。また、人も多く時間をかけてじっくりと仕事を行う環境も整っていると思いました。そして、放射線科は、研修する病院の設備などで特に出来ること、出来ないことに差がでる科だと思います。

今年度からは、画像診断では新しいMRI、治療では新しい治療装置の稼働も予定されており、益々放射線科での研修が充実したものとなってくると思います。

放射線科を考えている方がいましたら、大学での後期研修をおすすめしたいと思います。

第104回　医師国家試験成績

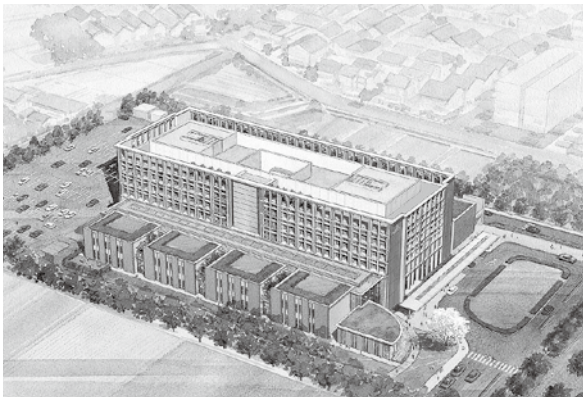
試験日	平成22年2月13日（土）・14日（日）・15日（月）			
合格発表	平成22年3月29日（月）			
受験者	101名（新卒者　101名）			
合格者	93名　合格率　92.1%			
参考	国立	合格者　4,059名	合格率　90.9%	
	全国	合格者　7,538名	合格率　89.2%	

会員から

◆久喜総合病院のご紹介

幸手総合病院院長　井坂茂夫（昭51）

ゐのはな同窓会の皆様に幸手総合病院と、新築移転予定の（仮称）久喜総合病院について紹介させていただきます。幸手総合病院は昭和9年組合病院として設立以来、地元に愛され親しまれて、JA埼玉県厚生連経営のもと地域医療を担ってまいりました。たくさんのゐのはな同窓会ドクターに勤務いただいた歴史ある病院です。現在192床（療養病棟40床）で運営されておりますが、施設が老朽化し、医療改革に対応できる新しい病院として生まれ変わるために、平成23年春の開院を目指して久喜市上早見地区に移転し新築することとなりました。埼玉県東北部の利根保健医療圏の中で、久喜市、幸手市および周辺の広い地域の皆様のお役にたてるよう、再出発いたします。新築に必要な資金として久喜市が35億円余りを拠出してくれます。不足分を埼玉JA傘下の金融機関、埼玉県信連が融資してくれます。新病院は300床に増床し、急性期の高度医療を担う地域中核病院を目指します。特に救急・救命とがん医療が最重要課題です。地域医療が重大な危機に直面している現実の中で、新しい病院を核に、この地域の医療再生が実現できるように職員一同の力を結集します。



新病院は「私たちは質の高い医療を通して地域の発展に貢献します」を理念として掲げ、基本方針に①患者さんの権利と意思を尊重します、②高度で専門的な救急医療・がん医療を提供します、③安全で心温まるチーム医療を実現します、④地域の医療機関と連携し地域完結型医療を構築します、⑤患者さんと職員の満足度向上に努めます、⑥教育研修に励みます、⑦地域で信頼される医療機関を目指します、の七項目を設けました。新病院機能の重点整備項目は

(1)地域医療への取り組み：高度な医療機器と入院機能を特徴として、急病人・重症患者を入院で治療することに重点を置きます。外来部門は、紹介患者と救急患者の窓口としての業務が主となります。病診連携、病病連携を推進し、地域医療支援病院を目標とします。

(2)救急・救命、がん医療等への対応：24時間365日、地域に必要とされる2次レベル以上の救急に対応できるよう体制を整えます。また、代表的ながんに対する標準的な治療を、地域で受診できるよう設備を整え、地域がん診療拠点病院を目指します。

(3)臨床研修指定病院への取り組み：教育こそ病院が継続して発展していく基盤であるとの認識の下、幸手総合病院で実現できなかった医師の卒後臨床研修に取り組みます。

(4)災害拠点病院への取り組み：大規模災害時にも診療機能を維持し、地域の救援の拠点となれるよう、免震工法を採用した設計、施工となっており、大きな災害に巻き込まれた場合の診療拠点機能、近隣地域に災害が発生した場合の支援機能などを織り込んだ災害拠点病院を目指します。

(5)地域の健康管理への対応：厚生連病院の基本理念にのっとり、地域住民や農業従事者の健康を守るため、がん検診、職場健診、人間ドックなどの推進を図ります。病院内に健康管理センターを併設して、質の高い健診システムを運営します。また、地域に密着した開かれた病院として、保健・医療セミナーの開催をはじめ、医療に関する情報等の提供をすることにより、地域住民とのコミュニケーションの機会を増やします。

(6)医療人にとって働きやすく、働きがいのある病院づくり：職員皆が誇りを持って働けるような組織を目指します。女性医師を始め働く女性を支援できるよう職場環境を整えます。素敵な保育所を建物内に運営します。

(7)効率化を目指した病院作り：良質な医療の提供を継続していくためには経営基盤を固める必要があります。業務の効率化を図り、収益率を高めます。医療安全と業務効率化の達成のために、電子カルテを中心とした総合病院情報システムを導入します。

施設規模は、病床数300床、敷地面積37,950㎡、延床面積23,000㎡、構造は鉄筋コンクリート造り、地上5階で駐車場530台分を備えます。設計は日建設計とJA設計のジョイントチームで、施工は間組が行っています（完成予想図及び平成22年2月現在工事現場写真参照）。平成22年11月竣工引き渡し見込みで、平成23年4月移転新規オープンの予定です。予定されている診療科目は、内科、消化器科、呼吸器科、代謝・糖尿病内科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科、放射線科（診断、治療）、麻酔科、救急科などです。千葉大出身者が診療部門の中核を構成しますが、各分野複数の大学出身者たちの混成部隊を編成し、お互い切磋琢磨して成長していってもらいたいと考えています。医療従事者が疲弊しないように工夫をしながら、地域の人に安心してもらえる救急医療体制を構築します。また、癌治療では、手術、放射線、化学療法を高いレベルで実現し集学的治療体系を実践していけるようにします。地域医療に志を持たれる方は、老若男女を問わず歓迎いたします。久喜の新病院に集まってください。興味をもたれた方は左記に連絡ください。

久喜新病院情報をゐのはな同窓会ホームページ動画にアップロードしていますので、見ていただければ幸いです。

連絡先：幸手総合病院
TEL：0480-42-1211
メール：sattehp@violin.ocn.ne.jp

世に知られないHIV／エイズの現況

東京都南新宿検査・相談室
室長　小島弘敬（昭38）

南新宿検査・相談室（南新宿）は東京都が東京都医師会に委託し、平日夜間、土、日も開設の匿名無料のHIV検査相談室である。1993年の開設を主導された都の稲垣智一氏、現在お世話頂く都医師会、道永麻里感染症担当理事は共に心強い本学同窓であり、同級の沖田正彦君も告知で活躍している。小生は日赤医療

センター泌尿器科当時から都感染症サーベイランス委員で、5年前から南新宿に勤務している。南新宿は1年間に約1万人（女性約40％）の受検者から100人前後の感染者を見い出し、これは全国のHIV／エイズの1/3を占める都の感染者の約1/3にあたる。HIV拠点病院の専門医の講習会等の発言では「HIVは全てのセックスで、男女共に感染し、今後女性の感染爆発が怖れられる」と説かれ、マスコミも同じ論調をくり返し、医師も一般人もそのように理解している。大変に驚いたことに南新宿での現実は全くこれと相違して、最近5年間で男性感染者は540人であるが、女性感染者は4人（日本、中国、タイ、ミャンマー各1人）、男女比135：1ときわめて少数であり、また男性感染者はアフリカ系男子の1人を除いてほぼ全て「アナルセックス（アナル）のあるMSM（Men who have sex with men）」に限られる。この事実は南新宿に限られることではなく、男女比は2008年、都27：1、全国29：1であり、しかも厚労省統計の感染女性の約8割は「外国人、または日本人との結婚で日本国籍となった外国人」である。また図2の都統計で異性愛者比率が南新宿と異なって20％強あるのは、届出の基礎となる主治医による「性向の問診」の不馴れ、不適切による。MSMはあらゆる職業に不偏的に存在し、「ゲイの文字通り快活な人」、「気の沈む人」、「アナルの有無ばかりでなく」など千差万別であるが、差別の中で成育するため自分がMSMであると開示できない人、また場合がある。そのため厚労省統計では、『重症で「主治医と同じ性向と答えねば」との心理的圧力がより強いエイズ患者』のMSM比率が、「同一ウイルス感染症であるHIV感染者」の半分に過ぎないという不合理な結果となっている。南新宿のMSM比率が高いのは新宿に位置するからではなく、受検者の40％は都外であり、南新宿の現実は全国の縮図である。HIV感染者が150万で経験の多い米国では、「膣性交の感染伝達率は1000回に1回」とされる。南新宿受検者にはCSW（セックスを仕事にする人）も多いが感染者は皆無である。「浅草の吉原地区でCSW診療歴十数年の植村元吉原病院長、同じく川崎の尾上医師」によれば、同じく日本人CSWの感染者は皆無で、タイなど外国人が数人という。麻薬注射の多い欧米の男女比は8：2、STD罹患率がきわめて高いアフリカでは1：1である。

唯一のHIV感染高リスク群である「アナルのあるMSM」に個々人のリスクの面談を2006年から徹底した。図1のように南新宿のHIV陽性者数は2008年前年比約30％の激減、2009年さらに約10％減少。図2のように東京都でも南新宿に1年遅れで2009年13.4％急減した。この減少は一時的ではなく今後も続くと考える。理由は南新宿受検のMSMに、「STD罹患率の低下」、「パートナーに感染を告知できる人の増加」など「安全への行動変容」がみられるからである。「HIVは抑制不可能」ではなく「アナルのリスクの周知」により抑制可能である。これはHIVに携わる全ての人が共に喜ぶべき事実で、10年前に実現していれば感染者数はより少なかったであろう。HIV感染者46症例については、クラミジア抗体陽性84.7％、クラジミア抗体陽性・梅毒陽性21.7％、B型肝炎罹患率92.3％等の罹患率も高く、STI罹患者のHIV検査は必要である。

米国CDCがエイズを発表した翌年の1983年シアトルのSTD学会に故岡本皮膚科教授と参加した。米国では当時すでにHIV感染者中の血友病感染者比率は1％弱であった。のちの厚労省班会議で梅毒の権威の岡本教授は、ただ1人「エイズ対策は高リスクのMSMを主対象とすべき」と主張された。遺憾ながら班会議はSTDの疫学に無関心で厚労省と連携の強い権威者達により「血友病対策」となった。MSM対策には大きな壁がある。アナルという言葉は新聞、ポスターに書けない。また「HIV／エイズのリスクがアナルに限られる」との主張は「CSWが日本にとくに多い現状を助長する」とされ、MSMボランティアにも「MSMの差別に繋がる」との危惧が強い。専門家、役所担当者には文字通り「我田引水的な既得権保持」の姿勢が強く、眼前の現実を見ず仮想のリスクを強調する。しかしリスクのある人にその事実を知らせず感染を傍観してよいだろうか。「学力で人を押しのけて入学した諸君はそれらの人の分も努力して他人の不幸を救え」と千葉大学で教えられた。この頃の若者のこのような言葉への反応は鈍い。医療は金がかかるものとなり「病者を救うための善意に基づく個人の努力の届く範囲」は縮小した。多数決で事を行なう場合、「教育による構成員の資質」が問題となる。世を覆う拝金主義が理想の現実を困難にしている。大楠の下で励まれた諸先輩はなんとお思いだろうか。

執筆の機会を与えられました伊藤同窓会長に深謝致します。

ご質問、ご意見等は、午後2：00～3：00 03-3377-8122へお願い申しあげます。

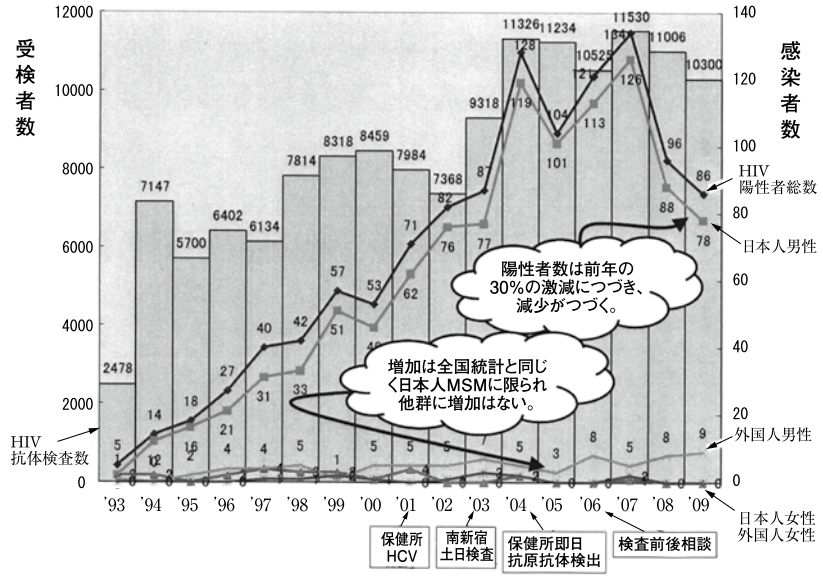


図1　南新宿のHIV感染者の国籍別性別　年次推移

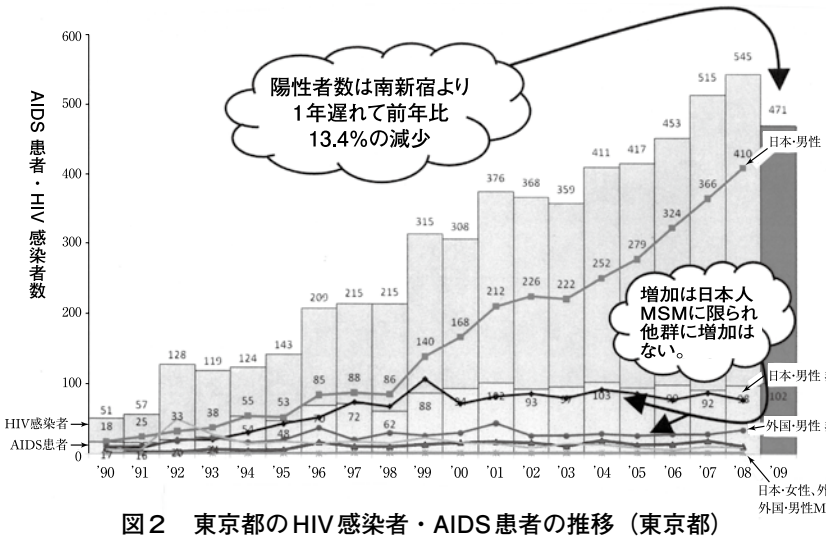


図2　東京都のHIV感染者・AIDS患者の推移（東京都）

追悼文

伊東和人先生を偲んで

野口照義（昭32）

平成21年11月16日夕刻5時過ぎの伊東和人先生訃報のファックスに驚かされましたが、当日午後6時より通夜、翌17日告別式との知らせで直ちに通夜に赴きました。生前の先生のお人柄を示すように、献花の列が延々と連なっていました。

先生は大正13年東京市で出生、旧制の成城中、成城高等学校を経て昭和23年、千葉医科大学卒業、インターンを経て25年正月に千葉医科大学教授・国立千葉病院院長鈴木五郎先生の下で外科学を学ぶ目的で国立千葉病院外科に勤務。昭和35年医学博士の学位を取得され翌年外科医長に就任されました。麻酔は外科の片手間にできない分野になるので、是非麻酔科をやって欲しいとの恩師鈴木五郎院長の希望もあり翌36年麻酔科標榜医を採られ麻酔科医長、外科兼務となられました。当時我が国では昭和27年に初めて東京大学に麻酔学講座が開設され、その12年後に千葉大学に麻酔学講座が開設した時点でも凡そ20校の大学に麻酔学講座が開設されていたに過ぎず、伊東先生ご自身麻酔医としての並々ならぬご苦労とご努力には敬服せざるを得ません。昭和40年千葉大学麻酔科教授に米沢先生が赴任され、翌年3月に第13回日本麻酔学会会長として総会を医学部記念講堂を主会場として千葉市内で開催されました。その後麻酔診療に従事している千葉県在住医師と千葉大学関係者での懇談会を企画し、同年12月に第一回千葉麻酔懇談会が開催され、翌42年6月に第二回千葉麻酔懇談会が伊東先生主催で国立千葉病院で開催されました。それ以来私は伊東先生と親しくご厚誼を持ち、国立病院や大学での麻酔に関する様々なご意見をいただき大変勉強になった事が想い出されます。先生は昭和53年に副院長、63年病院長、平成2年に退官され名誉院長になられました。その間、麻酔医として外科系を初め臨床各科での貴重な体験や見聞を真摯に受用され、更に私達後輩医師は勿論、看護師や医療技術者に医療人としての在り方を分け隔てなく親しく教授して下さいました。又職務柄多忙を極めるなか千葉大学非常勤講師、看護学校、救急救命士養成の消防学校などで熱心に講義をされ、更に麻酔学会を初め臨床外科、手術部医学会などの評議員と共に各種審議会や委員会の委員として活躍されました。これら長年に亙る顕著な業績に対し平成12年に勲三等旭日中授章を授章されました。先生は実に博学多識で文才に長け「麻酔40年の軌跡」を初め、老巧としての「老医の言いたい放題」「老医の独り言そして昭和」「老医の備忘録より」をそれぞれ3年毎に出版されてサイン入りでその都度送付下さいました。

先生はゴルフなど適宜運動を楽しまれておられましたが、平成9年に冠動脈のバイパス手術、平成17年に脳梗塞になられ、長年継続していた消防学校の医学概論と救急法の講義を私に受け持つよう電話がありました。その時の電話のお声はお元気なご様子でした。

平成21年10月21日、下痢・脱水で千葉医療センター入院、同月28日退院自宅療養されるも11月15日眠る様に静かに逝去されたと伺いました。謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

第4回「千葉大学医学部52会」開催のお知らせ

記

日　時：平成22年7月18日（日）
午後7時より
午後6時30分より受付

場　所：帝国ホテル　3階「扇の間」
東京都千代田区内幸町1－1－1
電話　03（3504）1111

【連絡先】
古川医院　古川　斎
〒264-0005 千葉市若葉区千城台北1－1－11
電話　043（234）4664
FAX　043（234）4665

千葉医学雑誌86巻 1 号目次

症　例

Double nerve crush syndrome by lumbar disc herniation and piriformis muscle compression
Takeshi Yamaguchi, Seiji Ohtori, Masaomi Yamashita, Takana Koshi Kazuyo Yamauchi, Chikato Mannoji, Munetaka Suzuki, Hidetaka Higashi Tamio Kon, Akira Hirose, Masashi Takaso, Yasuchika Aoki, Gen Inoue and Kazuhisa Takahashi

Step-ladder advancement 法を用いた有茎内側足底皮弁による踵部再建の1例　手塚崇文　佐藤兼重

圧迫性脊髄症の急性増悪期に顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）投与による神経保護療法を施行した5症例
佐久間　毅　山崎正志　国府田正雄　橋本将行　高橋　宏　林　浩一　川辺純子　藤由崇之　古矢丈雄　山内友規　門田　領　宮下智大　萬納寺誓人　染谷幸男　西尾　豊　鎌田尊人　腰塚周平　池田　修　喜多恒次　安宅洋美　吉永勝訓　村田　淳　橋本光宏　大河昭彦　高橋和久

研究紹介

臓器制御外科学　肝胆膵研究室
木村文夫　清水宏明　吉留博之　大塚将之　加藤　厚　吉富秀幸　古川勝規　竹内　男　高屋敷　吏　須田浩介　高野重紹　宮崎　勝

小児外科学
吉田英生　菱木知郎　齋藤　武　照井慶太　佐藤嘉治

海外だより

サンディエゴ留学記　井上　玄

学　会

第1188回千葉医学会例会・第42回麻酔科例会・第70回千葉麻酔懇話会
第1191回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

編集後記

第86回千葉医学会学術大会
千葉医学雑誌の表紙デザイン案の公募

千葉医学雑誌86巻 2 号目次

総　説

腰椎椎間孔狭窄の診断
江口　和　大鳥精司　山下正臣　山内かづ代　鈴木宗貴　折田純久　鴨田博人　新井　玄　石川哲大　宮城正行　桝田喜正　木川隆司　越智茂博　高橋和久

原　著

住民健診からみた代謝障害の頻度とメタボリックシンドロームの合併
－市川市基本健康診査の解析（1）－
渡辺東也　小林靖幸　安部幹雄　岩澤秀明　浮谷勝郎　上白土洋俊　大塚智博　河内山資朗　斎藤　彰　佐々木森雄　篠塚正彦　篠原正明　廣瀬安紀　福澤健次　土橋正彦

症　例

A case of closure of entire hard palate defect after palatoplasty - Tongue flap repair and its clinical results 6 years postoperatively
Chiho Sato, Shinya Yoshimoto, Akikazu Udagawa Naoaki Rikihisa, Yuichiro Kanazawa, Yoshitaka Fukaya Shinsuke Akita, Sara Shimizu and Kaneshige Sato

研究紹介

病原分子制御学（旧 微生物学第二講座）
清水　健　八尋錦之助　盛永直子　野田公俊

学　会

第1190回千葉医学会例会・第30回歯科口腔外科例会
第1197回千葉医学会例会・第27回神経内科教室例会

編集後記

第86回千葉医学会学術大会

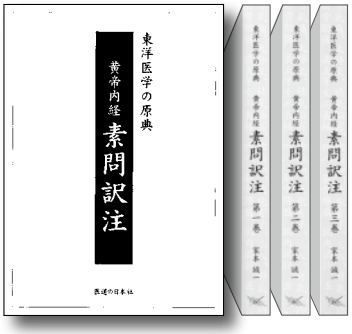
同窓会員著書の紹介

家本　誠一　著

東洋医学の原典
黄帝内経　素問訳注

二〇〇九年発行（全三巻）
医道の日本社　各五、五〇〇円（税別）

家本　誠一（昭22）



日本の伝統医学には漢方と針灸があります。その源流は中国は漢代に在ります。漢代の医学書には「素問」「霊枢」「傷寒論」「金匱要略」「神農本草経」「難経」があります。

「素問・霊枢」には、解剖、生理、病因、病理の基礎理論から診断、治療の臨床に至る医学の体系的理論と針灸療法が記されています。「傷寒・金匱」には疾病各論と薬物療法が記されています。基礎理論を知らなければ、臨床の実際も正確には理解出来ません。「素問・霊枢」を読まないと「傷寒・金匱」の疾病論も治療法も理解出来ないのです。

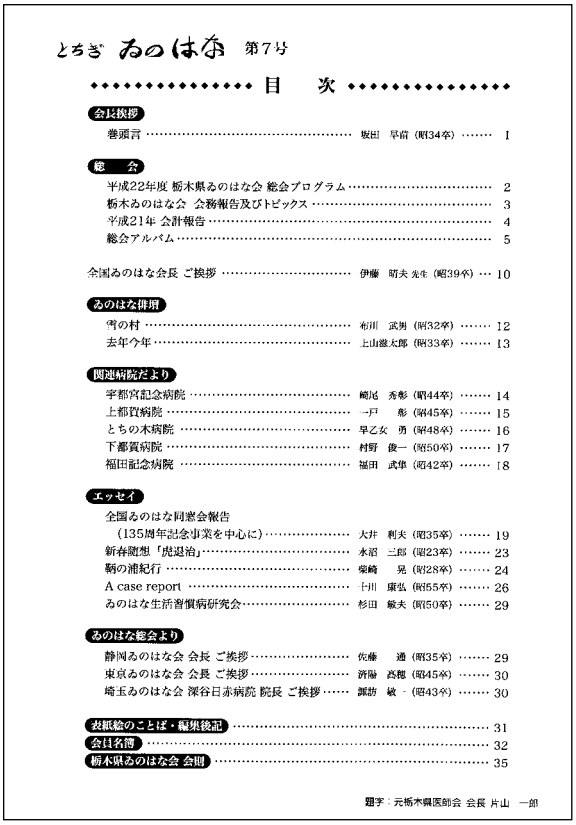
日本人は直接日常実際に役に立つものは尊重しますが、理論的なものは敬遠する傾向があります。医学の伝承にもこの傾向があって、「傷寒・金匱」の研究は汗牛充棟の有様ですが、「素問・霊枢」は殆ど取り上げられてきませんでした。

漢方の大家も針灸の長老も古典を読めと申します。しかし読む人はすくないし、読んでも理解出来ません。なぜか。これらの書物は漢代の医学書です。古代漢語で書かれています。古代漢語と医学の知識がなければ読めません。「素問・霊枢」には二十世紀になってからヨーロッパ医学が発見した事柄も記されています。徳川、明治、大正の医学では理解できず、迷信か虚妄の記事と思われていました。徳川以来、本書が読めなかった理由です。

柴崎保三氏は針灸師です。元十八軍参謀としてニューギニア戦線で苦戦しました。物資欠乏の中で軍医が殆どなすことない状況におかれた姿を見て、戦後針灸に志した人です。氏は藤堂明保氏の漢語語源学に基づいて、「素問・霊枢」の言葉を一語一語解析して、その本来の意味を確定してゆきました。これにより従来読めなかったり誤訳されていた所が正確に理解できるようになりました。画期的な仕事です。その成果は「鍼灸医学大系黄帝内経素問」「同霊枢」として刊行されました。

家本は柴崎氏の著書を基礎として、その医学的事項について注釈を施しました。柴崎氏の漢語解釈と相まって医学書としての「素問・霊枢」の内容が一層明確に理解できるようになりました。漢方の研究者も針灸の実践者も先ず本書によって漢代医学の基礎を学んでからそれぞれの分野の研究に進むべきであると考えます。

栃木県ゐのはな会



とちぎ　ゐのはな　第7号

目　次

会長挨拶
巻頭言 …… 坂田　早苗（昭34卒） …… 1

総　会
平成22年度 栃木県ゐのはな会 総会プログラム …… 2
栃木ゐのはな会　会務報告及びトピックス …… 3
平成21年 会計報告 …… 4
総会アルバム …… 5

全国ゐのはな会長 ご挨拶 …… 伊藤　昭夫 先生（昭39卒） …… 10

ゐのはな俳壇
雪の村 …… 布川　武男（昭32卒） …… 12
去年今年 …… 上山澄太郎（昭33卒） …… 13

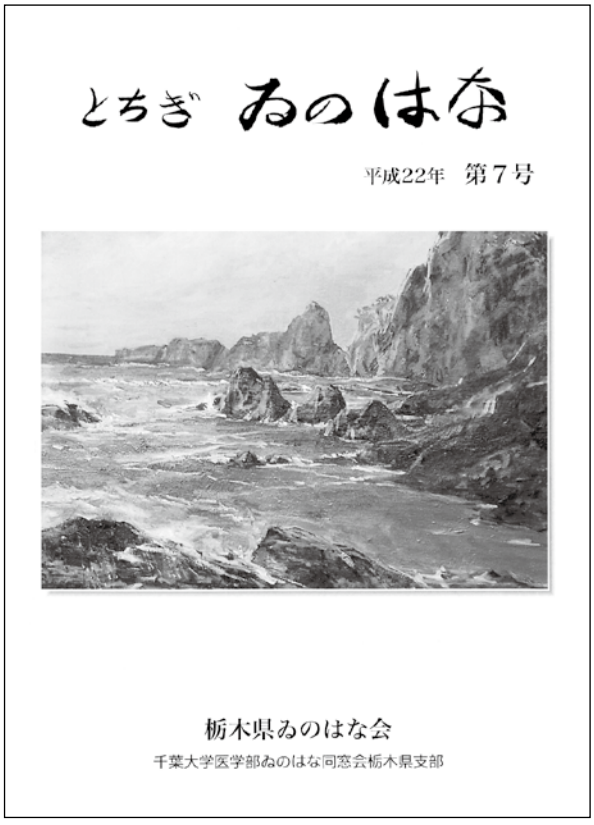
関連病院だより
宇都宮記念病院 …… 嶋尾　秀彰（昭44卒） …… 14
上都賀病院 …… 一戸　彰（昭45卒） …… 15
とちの木病院 …… 早乙女　勇（昭48卒） …… 16
下都賀病院 …… 村野　俊一（昭50卒） …… 17
福田記念病院 …… 福田　武隼（昭42卒） …… 18

エッセイ
全国ゐのはな同窓会報告
（135周年記念事業を中心に） …… 大井　利夫（昭35卒） …… 19
新春随想「虎退治」 …… 水沼　三郎（昭23卒） …… 23
駒の浦紀行 …… 柴崎　晃（昭28卒） …… 24
A case report …… 十川　康弘（昭55卒） …… 26
ゐのはな生活習慣病研究会 …… 杉田　敏夫（昭50卒） …… 29

ゐのはな総会より
静岡ゐのはな会 会長 ご挨拶 …… 佐藤　通（昭35卒） …… 29
東京ゐのはな会 会長 ご挨拶 …… 浜陽　喜郷（昭45卒） …… 30
埼玉ゐのはな会 深谷日赤病院 院長 ご挨拶 …… 諏訪　敏一（昭43卒） …… 30

表紙絵のことば・編集後記 …… 31
会員名簿 …… 32
栃木県ゐのはな会 会則 …… 35

題字：元栃木県医師会 会長 片山　一郎



とちぎ　ゐのはな

平成22年　第7号

栃木県ゐのはな会
千葉大学医学部ゐのはな同窓会栃木県支部

東京ゐのはな会

目　次

Inohana Tokyo　vol.13

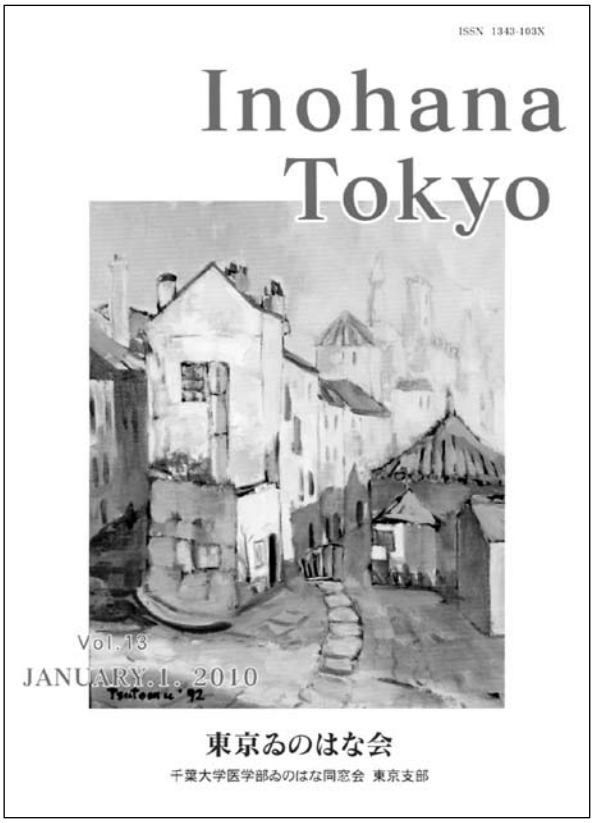
Page

巻頭言　年頭のごあいさつ …… 清陽　高穂 …… 1
年頭所感 …… 唐澤　祥人 …… 3
四国の旅（21・8・21～21・8・24）（徳島・松山） …… 山上健次郎 …… 5
台北寸描 …… 四家正一郎 …… 8
母校球場での「話の泉」の思い出など …… 渡部　圭郎 …… 12
観湖樓歌會顛末記　―ブララ平派との関連について― …… 座青　孝男 …… 14
師か上か …… 小沢　昭司 …… 18
旧制高等学校と寮歌祭 …… 川邊　兼美 …… 25
ストックホルムの想い出 …… 川邊　兼美 …… 38
自分の病歴 …… 永野　俊雄 …… 43
海上自衛隊最新潜水艦「おやしお型SS590」搭乗記 …… 村瀬　靖 …… 47
編集後記 …… 岩倉　弘毅 …… 54

勤務医通信　vol.14

新しい仲間をお迎えして …… 吉原　俊雄 …… 57
「外科医が足りない」 …… 栗原　正利 …… 59
東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学講座　主任教授
　就任挨拶 …… 遠藤　弘良 …… 67
東邦大学大森病院　一般・消化器外科教授就任のご挨拶 …… 島田　英昭 …… 70
ＮＴＴ関東病院初期研修医 …… 小島美奈子 …… 72
ＪＲ東京総合病院　初期研修医１年 …… 吉原晋太郎 …… 73

東京ゐのはな会 全国ゐのはな会 総会次第 …… 75
予算決算 …… 76
平成22年度ゐのはな行事予定 …… 77
東京ゐのはな会役割分担 …… 77
東京ゐのはな会会則 …… 78

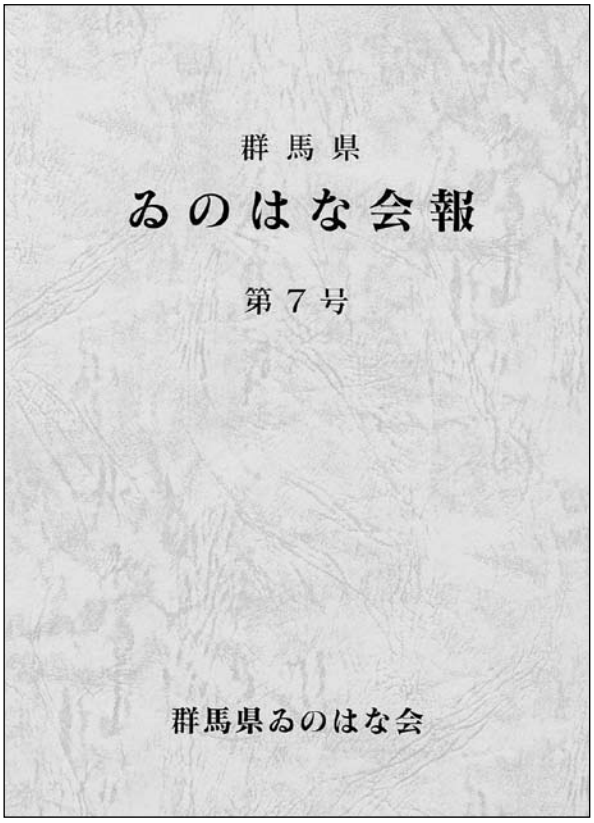


群馬県ゐのはな会

群馬県ゐのはな会　第７号

―目　次―

鈴木守先生（昭和39年卒）の群馬大学学長退官記念
　並びに上武大学学長就任祝賀会 …… 6
平成21年度　群馬県ゐのはな会総会 …… 8
群馬県と『ゐのはな会』 ……鹿山　德男（昭和29年卒）……11
教授選 ……佐藤　進一（昭和18年卒）……14
平成二十一年俳句五題 ……根本　幸一（昭和29年卒）……16
近　況 ……根本　幸一（昭和29年卒）……17
戸籍における50歳・100歳・150歳の壁
　……山本　輝通（昭和30年卒）……18
米食とパン食 ……森田　　茂（昭和30年卒）……20
木曾の御岳山 ……船曳　　甫（昭和25年卒）……21
裸　婦 ……西村　忠雄（昭和32年卒）……22
わが家の犬達 ……鈴木　　守（昭和39年卒）……23
近　況 ……保阪亜莉沙（昭和48年卒）……26
大学院時代 ……中島　　透（昭和56年卒）……28
第４回群馬県ゐのはな会ゴルフコンペ ……30
会計報告 ……31
会員名簿 ……32
会　　則 ……34
編集後記 ……35



平成22年度　医学部入学者

縣　千聖　浅野　大樹
阿部　和也　荒木　岳
荒木　貴裕　五十嵐活志
五十嵐美環子　池田　耀介
池水　結輝　石野　貴雅
石橋　武大　市川　光
伊藤　幸祐　伊藤駿太郎
井上　裕司　今井　俊
今井　悠　植田　暢
上田浩太郎　内野慶次郎
大嶋　望　大野　達矢
尾崎　尚人　小澤　里恵
小高　慶太　小野　亮平
恩田　洋紀　粕谷　雅晴
金井　瑞希　金井　美波
川端あづみ　川村　俊人
菊池　亮佑　北岡　寛己
久米　彩佳　栗原　滉平
栗原　桃子　甲田　研人
小島　以織　小林　哲之
小山　熙晃　近藤　乾伍
近藤　丈太　近藤　優帆
坂崎　仁美　佐古　育美
椎名　愛優　篠遠　朋子
清水　佳祐　周　達仁
庄司裕佳子　白岩　拓巳
新見　理恵　菅原　暢文
杉原　地平　杉山　友啓
関根　優　芹澤　奏
高木　賢人　高橋　寿枝
田口　愛　竹田健一郎
田波　貴彬　玉川　博章
千葉　広夢　塚越　彩乃
寺川　文英　徳留　久也
俊　徳保　内藤　潤
中島　祐人　永井　達也
新納菜都子　布目　愛紗
野下　寛徳　野村奈々子
長谷川翔子　長谷川靖晃
畠　陵馬　林　伸晃
日高　剛朗　平賀　崇
平山　晴之　廣瀬　雅紀
福澤　文駿　福田晃史郎
福元裕士郎　藤田　教寛
藤原亜規子　船津　悠也
古谷　慶太　堀　茉莉子
堀内　大　堀尾　亮輔
松永　典子　宮田　卓
深山　希望　向井　俊之
森口　駿　山内　昌磨
山口　亮　山﨑　達朗
山田　有統　山中　崇寛
山中　太郎　山本　真理
山本　祐也　横山　大騎
吉村　寧紘　若林　宗弘
涌井　凛子

平成22年度　大学院入学者

■【博士課程】

【環境労働衛生学】黒田玲子【環境生命医学】島津輝明【法医学】本村あゆみ【疼痛・緩和・周術期医学】安良岡真理【呼吸器内科学】天野寛之、小林健、重城喬行、田中健介、塚原真範、松浦有紀子【呼吸器病理学】石畑奈津【和漢診療学】王子剛、奥見裕邦、来村昌紀【認知行動生理学】石井大典、松田真悟【脳神経外科学】田島洋佑、廣野誠一郎【神経内科学】古賀俊輔、氷室圭一、武藤真弓【分子腫瘍病理学】志田友樹【泌尿器科学】内海孝信、佐塚智和【小児外科学】大野幸恵【分子細胞薬理学】池亀天平、軽部央子、川口憲治、成川雅俊【分子生体制御学】宋　丹【細胞治療内科学】齊藤景子、塚本祥吉【臓器制御外科学】宇野秀彦、大久保嘉之、篠田公生、田中圭、中田泰幸、中村祐介、細川勇【病態検査医学】末吉茂雄、バハテヤリ　ラヒムトラ【生殖機能病態学】植原貴史、藤田真紀、【遺伝子制御学】岩本太郎、大久保綾子、川島沙紀、齊藤ゆかり、鈴木快枝、田中繁【分化制御学】PAN JING【整形外科学】及川泰宏、岡本聖司、加藤啓、久保田剛、佐久間詳浩、芝山昌貴、向山俊輔、村松佑太、山﨑博範【耳鼻咽喉科学】飯沼智久、木下崇、櫻井利興、佐々原剛、船越うらら、堀中敦史【消化器病態学】石井清文、伊藤禎浩、大山広、小山田新、近藤孝行、齊藤朋子、辰巳優子、西川貴雄、峯村荘子、元山天佑【精神医学】沖田恭治、木村大、鈴木智崇、【循環器病態学】金枝朋宜、近藤祐介、中野正博、堀江佐和子【口腔科学】鹿野文絵、木村領太、馬場隆緒、皆川康之、横田哲史【先端外科学】磯﨑由佳、竹下修由、栃木透、藤城健、丸山哲郎【心臓血管外科学】田村友作【臨床推論学】鈴木慎吾【司法精神保健学】今井淳司、澤　潔【分子腫瘍生物学】WU DAN、S.M.RAFIQUL ISLAM、山口陽子、于凡

■【修士課程】

【環境影響生化学】姜　霞、任　乾【環境生命医学】井越有香、坂本昇、菅田陽太【公衆衛生学】梅田果林【法医学】小池梨絵【認知行動生理学】揚戸薫、佐藤裕貴、濵田裕幸【薬理学】遠藤愛実【感染生体防御学】諸田雅央【分子病態解析学】陳健嘉【分化制御学】稲毛寿美奈、小橋優子【免疫発生学】佐々木文絵、遠山裕之、林﨑浩史【小児病態学】久保田隆之【精神医学】権蛇明【分子機能制御学】小出周平、林亮祐【病原機能】太田裕子【微生物資源】三浦あゆみ【臨床感染症】工藤奈都【免疫制御学】尾畑佑樹、北原祐樹【分子腫瘍生物学】久保奈津美、中島久美子、福田真佑、松本大介、山内駿

人事異動

准教授

神経疾患重粒子線治療学
岩立　康男（昭58）
（附属病院助教より）
生殖機能病態学
長田　久夫（昭56）
（附属病院准教授より）
循環病態医科学
永井　敏雄（昭60）
（同講師より）
泌尿器科学
二瓶　直樹（平3）
（附属病院講師より）
病原分子制御学
清水　健（金沢大・平元）
（同講師より）
婦人科腫瘍重粒子線治療学
三橋　暁（弘前大・平2）
（同講師より）
こどものこころ診療部
中里　道子（平2）
（同講師より）

講師

脳神経外科
小林　英一（昭61）
（医学研究院助教より）
整形外科学
中川　晃一（平2）
（同助教より）
循環病態医科学
南野　徹（平元）
（循環器内科助教より）
循環器内科
船橋　伸禎（平元）
（同科助教より）
心臓血管外科
石坂　透（大阪大・平元）
（東宝塚さとう病院
心臓血管外科部長より）
麻酔・疼痛・緩和医療科
田口奈津子（平元）
（医学研究院助教より）
眼科
佐藤　栄寿（平7）
（医学研究院助教より）
精神医学
深見　悟郎（平7）
（附属病院助教より）
泌尿器科
川村　幸治（平11）
（同科助教より）
人工腎臓部
平山　陽（筑波大・平8）
（同助教より）
社会精神保健教育
研究センター
岡村　斉恵（平10）
（医学研究院助教より）
形態形成学
伊藤　千鶴（宮崎医大・平12）
（同助教より）

他大学教授就任

廣島　健三（昭54）
東京女子医大八千代
医療センター病理診断科
松井　英雄（昭55）
東京女子医科大学
産婦人科講座
鈴木　実（平元）
熊本大学大学院
生命科学研究部
鈴木　啓悦（平2）
東邦大学医療センター
佐倉病院
納谷　幸男
帝京大学市原病院
泌尿器科

病院長

西川　哲男（昭47）
横浜労災病院
十川　康弘（昭55）
上都賀総合病院

千葉県職員人事異動

千葉県がんセンター

鍋谷　圭宏（昭60）
主任医長（新採）
荒木　章伸（平2）
主任医長（医長）
川名　秀忠（平2）
主任医長（医長）
長谷川祐三（平13）
医長（新採）
河田佐和子（山形大・平13）
医長（新採）
芳野　充（浜松医大・平15）
医長（新採）
小林　将行（平15）
医長（新採）
太田　拓実（平15）
医長（新採）
錦見　恭子（平15）
医長（がんセンター医師）

千葉県赤十字血液センター
浅井　隆善（昭49）
所長（静岡県赤十字血液センター長より）
救急医療センター
酒井　芳昭（岡山大・平2）
主任医長（医長）
渡辺　裕之（弘前大・平2）
主任医長（医長）
循環器病センター
藍　寿司（富山医薬大・昭63）
医療局診療部内科部長（新採）
こども病院
青木　満（昭58）
医療局診療部心臓血管外科部長（主任医長）
中島　弘道（昭58）
医療局診療部循環器科部長（主任医長）
仲野　敦子（平2）
主任医長（医長）
東　浩二（平9）
医長（新採）
松野　大輔（平13）
医長（新採）
佐原病院
米田みのり（北大・平3）
医療局診療部リハビリテーション科部長（医長）
菅谷　睦（信州大・平3）
医療局診療部病理検査科部長（医長）

千葉県職員より退職

崎山　樹（昭39）
千葉県赤十字血液センター長
川島　道美（昭51）
精神保健福祉センター長
堀江　弘（昭44）
こども病院医療局検査部長
川上　秀夫（昭58）
精神保健福祉センター次長
小松　悌介（昭60）
医療技術大学校教授

千葉市職員人事異動

市立青葉病院
高橋　長裕（昭45）
病院長（副院長）
寺野　隆（昭51）
副院長（診療局長・救急集中治療科部長事務取扱）
岩崎　秀昭（昭51）
診療局長・救急集中治療科部長事務取扱・眼科部長事務取扱・精神科部長事務取扱（産婦人科部長）
市原健康福祉センター
児玉賀洋子（昭53）
センター長（市川健康福祉センター長）
精神保健福祉センター
岡田　眞一（昭59）
センター長（千葉市立病院精神科部長）

千葉市職員より退職

更科　廣實（昭42）
市立青葉病院長
瀬谷　彰（昭56）
保健福祉局健康部技監・中央区役所保健福祉センター技監兼務・若葉区役所保健福祉センター技監兼務・保健増進センター主任医長事務取扱

平成21年度第3回常任理事会議事要旨抜粋

日　時：平成22年2月17日（水）
場　所：東京ステーションコンファレンス503 A室
出席者：伊藤晴夫（会長）、大井利夫（副会長）、済陽高穂（副会長）、青木謹、伊藤達雄、岩倉弘毅、加部恒雄、早乙女勇、佐藤通、白澤浩、鈴木信夫、瀧口正樹、田中光、田邊政裕、角田隆文、吉川廣和、吉原俊雄、

伊藤会長の挨拶の後、会長が座長となって議事が進められた。

議案

1．平成22年度行事予定について
瀧口正樹理事より、資料に基づき説明があり、以下の行事予定が承認された。
常任理事会
平成22年4月22日（木）、11月17日（水）
平成23年2月17日（木）（22年度から、水曜、木曜、交互の開催とする）
総会
平成22年6月下旬
会報発行
平成22年5月、9月、平成23年1月
同窓会賞決定
平成22年4月22日（木）
学会研究助成決定
平成22年11月17日（水）

2．平成22年度総会について
加部恒雄理事より説明があり、平成22年度総会は千葉県ゐのはな会の担当により、6月下旬を予定し、詳細については今後検討することとなった。

3．役員交代について
瀧口理事より、資料に基づき、常任理事の交代について報告があり、理事会（総会と合同）に諮ることが承認された。

報告事項

1．予算執行状況（中間報告）について
白澤浩理事より資料に基づき、平成21年度中間決算報告がされ、収入の部では、会費等の収入が例年より遅れている。支出の部では、会議費は135周年記念事業会関連の会議が開催されたことにより予算を若干超えたとの報告があった。

2．新ゐのはな同窓会館設立事業について
田邊政裕理事より資料4に基づき、新ゐのはな同窓会館建設について説明があり、以下の合意を得た。設計にあたる工学部・栗生明教授研究室との覚書等については千葉大学、医学部の事務方等に検討を依頼、また、立体図等による建物の概略の説明を栗生研究室に依頼し、臨時常任理事会にて確認することとした。
「千葉医学の伝統」言語化について田邊理事より資料4に基づき、説明があった。1月31日までに寄せられた文書を無記名のリストにして、有識者の先生方に意見を聞き、選択していく。この作業を繰り返して、言語化の文書を決定していく事が承認された。
設立事業会役員、委員長交代について、瀧口理事より説明があった。役職指定の後援会会長、医学部事務部幹事等は新常任幹事に交代した。財務委員長は、寺澤委員長の希望退任により、野村文夫新委員長に交代となった。

3．広報・編集関係について
鈴木信夫理事より、5月発行の会報、オンライン会報について当日配布資料により報告があった。

懇談事項

1．平成22年度予算編成について
白澤理事より、資料に基づき、平成22年度予算編成に当たって、総務費および事業費予算で検討すべき点について説明があり、以下のような提案がなされた。①理事会費、委員会費を増額。②メディカルオンライン事業は、一部のユーザーの集中的大量使用を防止できないため中止。③千葉大学医学部が地域医療に貢献する人材に修学資金を提供するシステムに協力。該当する優秀な学生2人に対して「ゐのはな修学資金」として1年間の授業料半額相当（24万円／1人）を支給する。④IT広報関連事業費の増額。これらを踏まえて平成22年度の予算案を作成することが了承された。

原稿募集

1．現代の医療問題について
2．開院など近況報告
3．ほっと和むエピソード　など

次号は、平成22年9月発行予定です。
原稿は1,400字以内にて事務局まで！
e-mail：info@inohana.jp

締切は7月末
投稿お待ちしております。

新ゐのはな同窓会館設立事業募金状況

（平成22年３月31日現在）

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始まりました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。

寄付納入者一覧

（敬称略）

一般個人

片野　鈴枝
久保田勘也
稲瀬　道和
進藤　輝山

企業・法人等

赤星工業（株）
旭化成ファーマ（株）
あすか製薬（株）
アステラス製薬（株）
アストラゼネカ（株）
アルフレッサファーマ（株）
（株）石渡商事
（株）ウチダ和漢薬
栄研化学（株）
エスエス製薬（株）
エーザイ（株）
エース損害保険（株）
（株）エスアールエル
エルメッドエーザイ（株）
大塚製薬（株）
（株）大塚製薬工場
（医）大平会嶺井第一病院
小野薬品工業（株）
科研製薬（株）
化研生薬（株）
JFE川鉄千葉病院
（株）北原防災
キッコーマン（株）
キッセイ薬品工業（株）
杏林製薬（株）
興和（株）
協和醗酵工業（株）
キリンファーマ（株）
埼玉県厚生連　熊谷総合病院
グラクソ・スミスクライン（株）
クラシエ製薬（株）
クラシエ薬品（株）
小太郎漢方製薬（株）
（株）小山商会　千葉営業所
（医）社団よつ葉会介護老人保健施設　さかき光陽
佐藤製薬（株）
サノフィ・アベンティス（株）
沢井製薬（株）
（医）三愛記念病院
（医）三愛記念そが病院
参天製薬（株）
（株）サンリツ
（株）三和化学研究所
シェリング・プラウ（株）
塩野義製薬（株）
白鳥薬品（株）
（医）みはま病院
聖隷浜松病院
聖隷佐倉市民病院
聖隷横浜病院
ゼリア新薬工業（株）
第一三共（株）
大正製薬（株）
大日本住友製薬（株）
大鵬薬品工業（株）
タカイ医科工業（株）
武田バイオ開発センター（株）
武田薬品工業（株）
田辺三菱製薬（株）
（株）千葉京成ホテル
千葉中央会計事務所
千葉中央メディカルセンター
中外製薬（株）
（株）銚子丸
（株）ツムラ
帝人ファーマ（株）
テルモ（株）
トーアエイヨー（株）
（株）東葛幸文堂
財団法人　同仁会
東和薬品（株）
富山化学工業（株）
鳥居薬品（株）
ニプロファーマ（株）
日興コーディアル証券（株）
日本イーライリリー（株）
日本化薬（株）
日本ケミファ（株）
日本新薬（株）
日本製薬（株）
日本臓器製薬（株）
日本たばこ産業（株）
日本ベーリンガーインゲルハイム（株）
ノバルティスファーマ（株）
バイエル薬品（株）
（株）パイオニア
萬有製薬（株）
ファイザー（株）
（株）富士フィルムメディカル
扶桑薬品工業（株）
ブリストル・マイヤーズ（株）
（株）ほてい家
ホテルグリーンタワー幕張
ホテルニューオータニ幕張
マイラン製薬（株）
丸石製薬（株）
マルホ（株）
（有）丸萬
（株）ミノファーゲン製薬
明治製菓（株）
持田製薬（株）
（株）ヤクルト
（株）ヤンセンファーマ
ゆげクリニック
ロート製薬（株）
ワイス（株）
わかもと製薬（株）

医学部後援会

浅井　俊治
新井　英雄
飯田　豊
池内　英男
和泉みどり
井上　憲二
岩花久仁子
海村　昌和
太田　昌男
緒方　一
奥山　広明
小谷　野信
笠間　昭彦
勝俣　賢二
金子　浩一
川端　基彦
北爪　秀政
工藤　琢也
蔵田　昌子
小曽根卓朗
小関　洋男
小塙　清
櫻井　茂
下平　坦
須賀　秀晃
高浦　和彦
高橋　恒雄
田島　啓二
塚田　俊行
富永　庸平
豊田　浩史
中川　康
中田　徹亮
東ヶ崎邦夫
平山　敏雄
安達　哲夫
有里　敬代
飯田　義三
石田　和弘
伊藤　龍也
井福　正博
岩村　千秋
大橋　茂
大庭　恵
岡本　弘子
小野　文雄
小林　洋一
片岡　清
加藤　誠
上川床総一郎
菊池　敏美
木下　富夫
熊谷　武久
黒川　道徳
後藤　喜章
小西　敏郎
酒井　雄一
佐藤　恒明
鈴木　壽郎
泉水　卓
高橋　修
竹本　勝己
田中　清七
坪井　良眞
豊田　弘
永井　玉枝
中川　洋一
名倉謙二郎
日野修一郎
広沢　邦浩
廣瀬　俊夫
藤田　邦臣
細川　裕之
松岡　才二
松村　雅生
武藤大二郎
山田　雄一
与儀　実久
吉岡　雅之
与芝　真彰
和田　正英
医学部後援会
藤井　康史
堀井　宏志
前田　雅治
松田　一男
三田　信明
森　豊
山本　幸一
吉井　仁実
吉澤　尚嗣
若松　英彦

医学部教職員等

環境影響生化学
鈴木　敏和
法医学
佐藤　彌生
神経生物学
山口　淳
薬理学
坂下　育美
発生生物学
川内　大輔
免疫発生学
細川　裕之
救急集中治療医学
仲村　将高
細胞分子医学
宮城　聡
総合診療部
大平　善之
先端和漢診療学寄附講座
関矢　信康
久永　明人
循環型地域医療連携システム学
馬杉　綾子
千葉大医・旧助手会
久保　武一
室山　優子
岩村　千秋

新ゐのはな同窓会館設立事業会募金状況報告書

2010. 3 .31 現在

寄附者	千葉大学基金		ゐのはな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	104	40,624,000	13	2,790,000	117	43,414,000
教職員（元職員も含む）	134	15,962,000	108	3,030,861	242	18,992,861
同窓会会員	1,330	106,505,000	832	36,156,000	2,162	142,661,000
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,634	167,929,000	1002	44,706,861	2,636	212,635,861

同窓会員

昭15
田中　洋
昭16
薬丸比呂志　渡邉　彦憲
昭16⑫
倉田　博夫　横江　康夫
昭17
浦野　英夫　森島　猪二
下山　賢次　橋本　孝平
藤江　寛忠　水間　正冬
専17
吉田　芳樹
昭18
梶山　豊　佐藤　進一
竹蓋荘一郎　田中　進
専18
川辺　敏　山崎　康弘
来仙　隆
昭19
井出源四郎　北澤　幸夫
清水　衛　野際　英雄
平形　義人
専19
池　二郎　村島　正博
山崎　衛
昭20
長田　浩　草間　隆
近内　康夫　横地　尚
渡邊　昌平
専20
今島　浩　久保田亨一
鵜澤　壽　勝呂　安
昭21
石原　眞　大磯　英雄
郡山　春男　国井　光智
齋藤　豊一　佐藤　壹三

中島　浩二　萩野　裕
本間　三郎　三宅　和夫
昭22
石郷岡　寛　神山　英明
清水　健三　千田喜久雄
福島　渓二　信藤　羊一
新田　実男　茂又　眞祐
鷲田　一博
昭23
板垣　修造　一色　重義
伊東　和人　上野　高次
海老原恒雄　九島　璋二
窪谷　満雄　斉藤　嘉一
多賀谷　譲　奈良　四郎
西堀　乙彦　平岡　眞
藤崎　滋　前田　裕
宮崎　隆次　和田　寛
専23
梅沢　亮　大野　信次
大平　馨　柿栖　米夫
香取　郁雄　斎川　俊一
三瓶　善康　鈴木　東洋
竹内　盈　橋本　眞
中山　重男　宮入　繁夫
渡辺　兼司
昭24
石谷　治彦　大林　泰
君島善次郎　木村　康
小林　準三　佐々木宣明
鈴木　文男　鈴木　直基
高野　俊男　田中　光
月岡　道雄　土屋　與之
寺島東洋三　中島　令一
中村　和之　長澤　仁一
菱木　達明　福永　和雄
武藤　滋
専24
伊佐　博夫　石井　克巳

石川　哲也　植草富二郎
太田廣三郎　大橋　平治
岡田　宏一　奥野　文雄
神山　一郎　河野　正賢
霜島　正雄　下坂正次郎
鈴木　一郎　土田　功一
德政　義和　中村　彰
中村　精男　幡野　永由
久安　徹　福山　正臣
南谷　幹夫　山川　晋吾
山口　寅三　山本　惇
佐藤　恒好
昭25
池田佐嘉衛　稲田　正實
越後貫　誠　佐久間光史
葛田　瑞世
専25
相磯　敬明　青木　宣昭
石毛　義治　市川　邦男
円城寺　栄　神原　昌言
島田　光重　嶋田　勉
高木　美典　竹之内　弘
中澤　甫計　中田　秀明
中野　正義　長嶋　晟
奈良林　定　船曳　甫
宮内謙二郎　森川　二郎
山崎　義人　横山　宏
渡辺　武夫
昭26
阿部　定生　石井　邦夫
伊藤　進　大倉　淳男
久我　哲郎　武井　稔
土手内守人　西宮　脩
細田　裕　柳澤　文憲
大和　舳舮　吉田　敏郎
渡部　士郎
専26
大沢　弘和　小関　芳昌

津村　澄雄　内藤　和穂
平川　達
昭27
阿部　忠夫　有田　文章
井上　幸万　大濱　博利
小川源太郎　小沢　昭司
河目　堯介　櫻井　稔
黄田　照光　住吉　孝男
荘司　榮德　橋爪　壮
原　恒男　関口　和夫
武宮　三三　得本　真義
中野　清幸　長崎　進
鍋谷　欣市　本間　康正
三橋　慎一　渡辺　勲
渡辺　武
専27
礒垣　弘　壬生倉　勝
昭28
阿部田辰一　石川　佳夫
上野　正和　奥井　勝二
小田　博之　小幡　裕
加藤　一雄　金子　敏郎
唐木　清一　窪田　靖夫
熊谷　信夫　小澁　雅亮
小山隆一郎　澤田　勤也
柴崎　晃　清水　惟義
鈴木　正剛　鈴木　正巳
平林　健六　武市　亨
寺島　克郎　成田　光陽
長谷川正博　平田　正雄
本位田泰介　松本　龍二
森山　典男　山下　泰徳
山田　達哉　吉田　道
吉田　恭二　若杉幹太郎
昭29
荒木　晃　大藤　正雄
大原　一夫　鹿山　德男
佐藤　忠夫　佐野　迪雄

柴田千葉男　島崎　淳
冨岡　清海　中塚　正夫
中野　繰一　根本　幸一
長谷川　透　羽生富士夫
福島　通夫
昭30
秋元　駿一　浅見　敦
浅利　行男　新井多喜男
石神　一良　伊谷　昭幸
伊藤　敏夫　岩井　忠志
大坪　雄三　片山　喬
貴家　昭而　小林　健次
小林　茂　小林　富久
後藤　澄夫　斉藤　正道
指田　和明　清水　良平
志村　昭光　高橋　康
高橋　宣光　滝口　光雄
十束　支朗　富田　裕
中島　和彦　中野　政雄
永野　俊雄　野本　和男
藤山　嘉信　古屋　大雄
松田三樹雄　丸川　和太
南園　義一　村瀬　靖
森田　茂　横田　俊二
吉原　一郎　渡辺　英詩
昭31
庵原　昭一　上原すゞ子
海老原雄一　小野清四郎
加藤　繁夫　桑原　久
香田　真一　杉山　伸子
辻　輝藏　西原源太郎
船橋　茂　森　碧
山口　慶三　山野　元
昭32
有馬　道雄　飯塚　正章
石川　正士　大久保惠司
柏木　登　三枝　一雄
斎藤　幸洋　仙波　恒雄

高橋　柳子　高橋　英世
竹内　達　谷川　久一
戸川　清　中村常太郎
夏目　隆一　西村　忠雄
野口　照義　野本　昌三
平嶋　毅　福田　陽
藤田　真　前田　昌利
牧野　耕治　村上　和
横尾　敦夫　依田　勇二
和田　康敬
昭33
相原　茲明　安里　洋
石川　恭子　石川　稔生
磯野　可一　柏戸　正英
宇野　一眞　新井　禮子
岡本　達也　小形岳三郎
小高　稔　小野寺美津雄
加藤　直幸　金子　勇
小林　延年　小林みち子
近藤洋一郎　花岡　建夫
佐藤　俊一　椎名　益男
石川美智子　嶋田　俊恒
清水　文七　菅谷　健彦
高木　學治　武田　従信
辻　陽雄　土井　偉誉
長崎　護　新美　仁男
林　國春　谷川　章子
檜垣　有德　御子柴幸男
吉田　貞利
昭34
赤星　至朗　石川　堯夫
植田　伸夫　植村　研一
遠藤　幸男　春日　建邦
倉持　正昭　齋藤　篤
坂田　早苗　塩川　喜之
清水順三郎　清水　精子
高木　良章　多田　富雄
津金澤督雄　関　泰男

野口　徹男　原　久彌
原沢寿三男　藤田　昌宏
矢崎　光保　谷嶋　俊雄
矢野　柾多　山本　成元
田口　勝　横山　哲夫
横山　宏　吉井　功
昭35
雨宮　浩　石川　哮
市村　公道　大井　利夫
岡村　隆夫　軽部冨美夫
海保　允　神田　敬
北方　勇輔　草刈　隆
阪　信　榊原　秀三
佐藤　通　鈴木　茂
千野宗之進　中田　益允
永田　一郎　長谷川鎮雄
藤村　眞示　堀田とし子
堀江　武　真島　吉也
松山　迪也　三橋　稔
増田　善昭　村松　準
谷嶋　つね　山崎　英雄
横山　孝一
昭36
新井　一夫　石下峻一郎
岡田　信道　小越　章平
小野沢君夫　加藤　喜市
加藤　昌義　川村　孝子
川村　光毅　栗原　稔
栗原　正明　黒田　健昭
吉永　雅俊　近藤　省三
今野　昭義　斉藤　利隆
青木　謹　白石　博康
鈴木　伸典　鈴木　光
関　幸雄　瀧澤　英夫
谷合　明　谷口　滋
塚原　重雄　中島　伸之
中田　義隆　福山　悦男
藤塚　立夫　淵上　隆

前嶋　清　松本　生
守山　洋一　山崎　修道
横山　健郎　吉野　明昭
昭37
石山　淳一　伊東　治武
伊藤　文雄　入枝幸三郎
安達惠美子　奥山　隆保
小野　幸雄　勝田　貞夫
黒岩　璋光　油井真知子
斎藤　全彦　宍倉　正胤
杉岡　昌明　岩倉　弘毅
瀬川　襄　中山　博
原田　康行　福士　和夫
藤森　宗徳　布施　吉弘
堀口　東司　村田三紗子
森　豊　矢野　靖子
柳沢健一郎　山口　國行
山本　駿一　吉川　正宏
油井　信春　佐々木　守
綿引　義博
昭38
浅野　尚　安達　元明
穴沢　輝一　木下　敏子
大木　勲　大津　裕司
大和田英美　加藤　友衛
北村　温　金城　和夫
栗原　伸夫　黄田　江庭
畔田　浩　香西　襄
佐藤　裕俊　高野　正義
玉置　哲也　谷　修一
十河　正寛　楯　二郎
寺島　市郎　寺嶋　周
鳥羽　剛　中田　瑛浩
成瀬　孟　野本　泰正
林　恵美　林　直諒
平形　征　藤本　重義
松井　宣夫　三木　亮
三井　静　緑川　隆

嶺井　進　宮治　誠
村山　憲太　若新　政史
渡部　浩二
昭39
秋草　克彦　鯵坂　秀明
阿部　一憲　田井千津子
飯田　義信　伊藤　晴夫
上原　朗　瓜生　東一
大河原邦夫　大塚　嘉則
大森　忠昭　岡野　照美
小野健次郎　貝田　豊郷
角張　雄二　木内　政寛
古謝　景春　小林　俊憲
今野　貞夫　斉藤　裕康
坂田　晃康　崎山　樹
重松　秀一　清水　天
白井　鎮夫　鈴木　守
鈴村　博一　高沢　博
高根　健　千葉　胤道
塚田　正男　那須野光政
原　輝彦　平形　昭代
深尾　立　万本　盛三
三浦　徹蔵　村上　信乃
本村八恵子　矢島　義忠
山口　正敏　山下　明美
山下　武広　山本　弘
米満　道子
昭40
青木　至　天海　照夫
遠山　敬介　今津　曄
漆原　昌人　海老沼光治
大木　健資　大本　恭平
小澤　弘侑　冠木　徹彦
税所　宏光　辛　京碩
関谷　宗英　島　毅
妹尾　素淵　曽野　文豊
黒田　紀子　高野　元昭
瀧澤　弘隆　竹内　龍雄

田中　則好　栃木亮太郎
長尾　龍郎　西村　和子
野口　眞利　伊藤　ルミ
服部　芳夫　日景　高志
武者　廣隆　石神　敏子
柳沢　貫一　山浦　晶
山田　勝巳　吉川　広和
渡邉　攻
昭41
新井　茂郎　飯島　幸雄
飯島　一彦　大島　仁士
王子　明　大塚　明彦
落合　武徳　若新　洋子
神谷　努　菊池　義公
桑木　絅一　小林　英夫
小林　伸行　三枝　俊夫
佐々木徳秀　里村　洋一
島田　哲男　白濱　龍興
鈴木　豊　鈴木　弓
高橋　淳一　高山　和夫
竹内　豊　竹島　徹
田中　文隆　塚本　嘉一
飯田　龍一　中島　忍
中村　宣生　市川　清子
半澤　儁　平澤　博之
御園生正紀　溝口　勝
安江　万二　鎗田　努
竜　良方　渡辺　一男
昭42
関　三千代　石井　従道
伊藤　達雄　大沼　直躬
関　隆郎　片倉　透
勝俣　剛志　冠木　敦子
更科　廣實　鈴木　一郎
谷口　克　高崎　健
高部　吉庸　田中　弘一
内藤　準哉　宮坂　斉
中島　克巳　中村　謙介

鍋島　和夫　忍頂寺紀彰
服部　孝道　林　龍哉
比嘉　英磨　日笠山一郎
平賀　一陽　藤澤　武彦
藤田　優　宮本　忠昭
森田喜崇子　森田　清
守屋　秀繁　安田　耕作
林　益子　吉野　紘正
渡辺　道典
昭43
青木　靖雄　赤井　寿紀
赤尾　建夫　足立　英雄
磯村　勝美　一瀬　正治
伊藤　進　岩間　汪美
網代　成子　太田　東吾
小澤　俊　鹿島　孝
梶尾　高根　加藤　之康
川村　功　北原　宏
栗山　喬之　久野　宗寛
小山　哲夫　神津　玲子
斎藤　弘司　佐藤　英樹
佐藤　文彦　佐野　元昭
宿谷　正毅　鈴木　昭一
鈴木　秀　諏訪　敏一
高山　直秀　滝川　弘志
田代　亜彦　玉井　輝章
千葉　彌幸　土田　弘基
鳥居　雅江　鳥居　敏明
仲尾　清　中嶋　弘道
中村　宏　高岡　邦子
藤塚　光慶　藤原　克己
舟橋満寿子　星野　聡
堀井文千代　堀川　義文
松清　央　盛　克己
李　思元　竜　崇正
和泉　佳子　横堀　直孝
和田　源司
昭44

浅野　武秀　飯塚　登
遠藤　晴久　石渡堅一郎
内海　武彦　岡崎　壮之
奥村　康　落合　靖男
加部　恒雄　河崎　純忠
高橋　容子　黄田　悦子
窪田　勝也　高地刀志行
神津　照雄　齋藤　康栄
篠原　義賢　辛　秀雄
須藤壮一郎　東山　都紀
高良　宏明　千本　英世
東山　義龍　中村　陽子
西島　浩　西村　則之
林崎　勝武　林　恒男
林　雅意　萩巣　敏子
星山　圭鉱　細井　湧一
堀江　弘　矢田　洋三
高橋　秀禎　山岸　厚子
吉井與志彦　吉田　明弘
吉田　操　渡辺孝太郎
渡辺　義郎　和田　力
昭45
相田　尚文　新井　裕二
アントニージョセフナポレオン
小俣　政男　家里　憲二
一戸　彰　伊藤　文二
細山　公子　梅津　亮二
榎本　正満　北島　忠昭
木村　邦夫　黒田　重史
腰塚　格　杉山　吉克
菅ケ谷純弘　住吉　徹是
高橋　正年　高橋　長裕
滝沢　淳　千見寺　勝
寺澤　捷年　天神　弘尊
伴野　悠士　中野　義澄
中山　章　永岡喜久夫
野田　宏子　橋本　英明
長谷川　毅　花輪　孝雄

林　泰　宮薗千代子
榎本　純子　向井　將
与儀　裕　済陽　高穂
渡辺　義二
昭46
千葉　幸恵　高瀬　直子
今田屋　章　牛嶋紃二郎
内田　朝彦　大友　一夫
大森耕一郎　荻原　奉祐
加来　俊貞　門井　隆司
磯部　洋子　金田　庸一
神崎　頼仁　木澤　功
木口　博之　大川　昌権
小林　弘忠　櫻井　幸弘
杉本　和夫　鈴木　直人
河村　和子　高瀬　学
高橋　誠　多賀谷　茂
谷口　瓔子　田畑陽一郎
中村　欽哉　丹羽　有一
浜崎　智仁　濱野　頼隆
久田　俊和　平野　和哉
川村ひろみ　船津　恵一
文　隆雄　保坂　瑛一
保阪　善昭　柳橋　京子
三浦　利重　矢端　幸夫
山室美砂子　吉田　孝宣
与那嶺和子　若林　康之
昭47
石川　詔雄　伊藤　文憲
稲葉　憲之　宇津見和郎
榎本　貴夫　大岩　孝司
大野　一英　大西久仁彦
岡　信男　尾形　実
河西十九三　加藤　誠
菊池　友允　北沢　栄次

平山　博久
古川　隆男　宮原　弘次
湯原　幹男　吉田　光宏
渡部十九六

栗原　正　真山　和徳
菅野　勇　勝呂　徹
鈴木　光二　鈴木　信夫
相馬　光弘　田井　東風
若山　曜子　唐司　則之
中嶋　征男　中村　和郎
長尾　啓一　西川　哲男
西野　卓　檜垣　進
松川　正明　山森　秀夫
力武　知之　若山　芳彦
脇坂　正美　渡辺　滋
昭48
浅野　誠　旭　俊臣
岩田　泰子　上村加代子
猪股　弘明　岩本　逸夫
上野　正純　上村　重明
梅田　透　大内　美南
大場　敏明　小川　富雄
小川　清　笠貫　順二
兼坂　俊章　金塚　東
木内　信二　君塚　五郎
木村　秀樹　片桐　博子
高圓　博文　河野　陽一
小林　健一　小林　道生
後藤　澄雄　坂口　明
佐藤　展将　白井　厚治
須崎　勢至　鈴木　晴彦
鈴木　洋文　早乙女　勇
高島　常夫　高安　賢一
千葉　次郎　徳久　剛史
内藤　威　中村　明
永山　洋子　灘岡　壽英
内田　宏子　野口　哲夫
野村　馨　羽鳥　文麿
広瀬　彰　千見寺　徹
保阪亜莉沙　保高由美子
千見寺ひろみ　前川　岩夫
南　昌平　守田　政彦

森山紀之
山本義一
昭49
青柳光生
有田正明
岩津都希雄
入江澄子
金子作蔵
菊地紀夫
五月女直樹
鈴木亮二
武井泉
田中眞
田町誓一
中村文子
西山眞理子
鳩貝文彦
三上恵只
弓削一郎
昭50
秋葉哲生
麻生誠二郎
大塚裕
沖本光典
鴨下博
川口英昭
小出義雄
斉藤万比古
佐々木健
篠宮正樹
隆元英
土佐寛順
富谷久雄
永瀬譲史
高橋道子
増村道雄
宮崎勝
山路正文
横山淳一
浅井隆善
石神博昭
江原正明
片桐誠
木村純
佐藤武幸
高原善治
田中正
田辺政裕
土佐純一
西山裕孝
野村恭子
渡辺博子
森川眞一
渡辺順子
麻生誠二郎
入江氏康
大森景文
上村公平
河内文雄
木村道雄
小林けい子
西山徹
中尾照逸
戸塚清一
高林克日己
勝呂慶子
篠遠彰
後藤信昭
佐伯直勝
森野正明
山本日出樹
横須賀收
赤嶺正裕
森本典子
岩崎秀昭
小野純一
小野和則
門山周文
黒崎知道
児島孝行
坂本薫
篠塚正彦
寺崎太郎
南波美伸
布施秀樹
蒔田国伸
松村勉
由佐俊和
昭52
五十嵐辰男
稲田晴生
尾崎正彦
香村衡一
木村正幸
小林彰
鈴木孝雄
高田俊一
塚田和美
中村勉
林田和也
福田薫
堀部和夫
松岡明
湊明
山田善重
山岸文雄
山本博憲
秋田徹
井坂茂夫
大塚芳克
小野元子
鏡味勝
川村健二
伊古田裕子
小松健祐
花岡明宏
塚田純子
山上岩男
吉澤卓
中山朝行
高橋和久
斎藤典男
林春幸
紅谷明
蒔田順子
八木橋美範
山本和夫
奥野妙子
大迫政智
海宝雄一
北澄忠雄
久保田浩一
小林純
須田啓一
高橋敏信
中沢肇
中山大典
檜前薫
古川斎
升田吉雄
松前孝幸
山口一
新井貞男
石川洋
上田源次郎
宇田川晃一
荻野幸伸
石川てる代
小林敏生
鈴木文晴
高良健司
武永博
仲田勲生
中村弘
得丸幸夫
塚本哲也
三潴忠道
森照男
山口哲生
中島一彰
武内重康
瀧口正樹
清水俊行
座間秀一
繁田美香
道永麻里
友利秀憲
中村広志
幸田圭史
奥脇治郎
岸雅子
市川智彦
赤倉功一郎
昭59
宮副一郎
星岡明
日野剛
長門義宣
田中泰弘
滝口裕一
鈴木俊英
平井真紀子
品田良之
高木一也
田島和幸
豊崎哲也
西村元伸
深沢毅
丸山浩
森田昌男
磯野史朗
伊豫雅臣
岡本弦
小野崎郁史
下山恵美
高梨一紀
高石聡
高橋弦
露口利夫
西島由美
星野育男
光永伸一郎
持田晃
安蒜聡
石島秀紀
菊野薫
窪田徳幸
坂井誠一
田邊信宏
平元
植田健
金民世
佐粧孝久
須関馨
高瀬完
中島文毅
原木真名
船橋伸禎
南野徹
中澤亨
西村美樹
林偉明
松永保
結城崇夫
坂本明美
大曽根義輝
熊谷匡也
呉青洋
佐藤直秀
田島康夫
佐藤さゆり
松江弘之
山口浩史
石井秀始
内田佳孝
柿沼由彦
黒須克志
小松尚也
白井よんえ
仲野公一
松下一之
三木隆司
渡辺絵里
高谷美成
長門文子
萩原雅司
古谷雄三
村松俊範
渡辺啓治
昭62
青江知彦
江畑龍樹
朝比奈真由美
小山秀彦
佐々木一
志賀英敏
中馬敦
福田浩之
安原晃一
高橋
中川宏治
藤本肇
松原久裕
村井尚之
渡辺和義
昭60
阿部恭久
佐藤典子
五十嵐裕章
北崎等
古口徳雄
鈴木昌彦
豊根知明
並木隆雄
師尾郁
吉野薫
昭61
安達智江
伊藤宏文
加藤直也
菊地浩之
佐藤晴彦
平2
石川文彦
花澤豊行
平栗雅樹
皆川真規
田垣内祐吾
関根郁夫
真田昌彦
金民世
佐粧孝久
須関馨
高瀬完
中島文毅
原木真名
船橋伸禎
南野徹
老沼和弘
岡田吉弘
勝見明
五月女隆
清水栄司
田中保彦
藤井克則
湯浅譲治
平3
早川睦
市川千秋
石塚伸子
倉持宏明
斎藤雅彦
白鳥享
中島光一
宍倉めぐみ
三浦文彦
石井徹
遠藤恒宏
小宮顕
貞広智仁
獅子原薫子
三橋繁
矢花孝文
吉田克彦
平5
太田詔
坂尾誠一郎
関谷武司
徳永進
深町唯博
本橋新一郎
平6
大鳥精司
小高謙一
門野源一郎
黄舜範
大渕徹
岡本和久
川名秀忠
佐藤宏
鈴木洋人
中川晃一
丸山紀史
天野晋
今井直樹
草塩公彦
小島博之
清水公一
福山郁修
二村静子
土井茂治
三池聡
磯部公一
奥山恭子
櫻井健一
樋口佳則
三橋修
谷嶋隆之
山本正二

河野　世章　齋藤　武
諏訪園　靖　宗　永元
髙森　尉之　大門　雅夫
松尾　幸治　丸田　哲郎
水鳥川俊夫　吉田　元

平7
金子　透子　神作　憲司
木原　真紀　竹内　男
武田　真一　野村　知弘
服部功太郎　松井由紀子
橋本　光宏　東　守洋
細井　郁芳　前田　仁士
宮内　秀行　村田　勝宏

平8
浅井　利大　天野　佳子
井上　博　岡田　尚子
川名有紀子　千葉　哲博
豊田　玲子　豊田　智彦
和田　曉彦

平9
富田　美佳　河村　治清
沼田　理　星山　琇
河野千代子　照井エレナ
鈴木　修一

平10
窪田　伸矢　愛波　淳子
窪田真理子　照井　慶太
藤井　朋子　溝口　雅子
伊藤　彰一

平11
岡本　明子　木下　香
西村　基　所　知加子
松浦　玄　宮本　牧
森　有紀　矢野浩二朗
吉住　博明

平12
長谷川宏美　幸部　吉郎
椎名　明大　立石　順久
栃木　直文　野口　美香
Visser 藤尾純子

平13
李　泓

平14
上野　高尚　嶋　謙一郎
清水　怜　半田　聡

平15
上原　孝紀　鈴木英一郎
高橋　宏　新津　富央
野口佐綾香　花岡　大資
山地　沙知

平16
有川　俊輔　内野　康志
岡山　大　片桐　明
杉山　雅彦　山本　憲子

平17
仙波　宏章　高瀬　正幸
渡辺　美佳

平18
髙市　麻貴　田所　重紀
渡邉　大智

平19
佐藤　明男　武藤　剛
山川　貴菜

平20
片桐　諒子

環境影響生化学
喜多　和子　菅谷　茂
橘　正道

環境労働衛生学
井上　雄元　北原　漠
能川　浩二

環境生命医学
熱海佐保子　門田　朋子

公衆衛生学
荻野　彰　小山　虎信
関根　憲治　竹腰　昌明
羽田　明　水野　武昭
安戸　一皓

法医学
茂谷　久子

麻酔学
高地　光世

加齢呼吸器病態制御学
清水　栄　宮崎　瑞明
橋爪　一光

診断病理学
田那村　宏　中谷　行雄

神経生物学
小平　昌　小林　賢二

自律機能生理学
桑木　共之

眼科学
石渡　東海　柿栖　米次
高綱　陽子　山中三千代
渡部　美博

脳神経外科学
石川　徹　永野　修

遺伝子生化学
芦野　洋美　岩瀬　克郎

腫瘍病理学
北川　元生　張ケ谷健一
古木　新　三方　一澤

泌尿器科学
梶本　伸一　茂田　安弘
角谷　秀典　真鍋　溥

薬理学
井上　優　門田　健
中谷　晴昭

感染生体防御学
野呂瀬一美　青才　文江
守　正英

分子生体制御学
木村　定雄

細胞治療学
池上　智康　風戸　豊
小林　淳二　齋藤　康
清水　公子

臓器制御外科学
鈴木　啓之

皮膚科学
黒田　啓　伊藤　文子
佐藤　千鶴

分子病態解析学
米満　博

形態形成学
年森　清隆　豊田二美枝
外山　芳郎　森山　行雄

発生生物学
齋藤哲一郎

動物病態学
伊勢川直久

生殖機能病態学
小野寺　勉　葛田　憲道
小林　章弘　生水真紀夫
芳野　春生

遺伝子制御学
中島　裕史　宮武昌一郎

分化制御学
内田　昭夫　近藤　正大

免疫発生学
中山　俊憲

小児病態学
阿部　博紀　花城恵美子
太田　節雄　金澤　正樹
多田　裕司　露崎　俊明
渡辺　福

整形外科学
小野崎　晃　篠原　寛休
鈴木　弘祐　武内　重樹
田波　秀文　土屋　惠一
渡辺英一郎

耳鼻咽喉科学
岡本　美孝　鎌田慶市郎
亀谷　秀夫　小関　洋男
橘　昌孝　山越　隆行
三橋　麗子

腫瘍内科学
足立　公代　宇野沢隆夫
奥田　桂子　越後貫道子
川島柳太郎　久原　厚生
小林千鶴子　佐久間　淳
及川　貞　須田　恵
多田　式江　寺田　洋臣
馬場　勇次　日暮　恊
矢沢　孝文　米満　裕
伊藤　俊夫

精神医学
日下　忠文

放射線医学
荒居　龍雄　伊東　久夫
川田　哲也　遠山　富也

胸部外科学
恒元　博　吉野　一郎

細胞分子医学
岩間　厚志　太田　要生

循環病態医学
江原　和枝　小室　一成
杉林　昭男　元山　妙子
宮内　郁枝　諸岡　信裕

臨床分子生物学
石山　信之　鵜澤　一弘
内山　清春　大木　保秀
小河原克訓　小野　可苗
木村　孝雪　工藤　逸郎
大川　和子　坂本　洋右
佐藤　匡司　椎葉　正史
嶋田　健　翠川　鎮生
盛永　智子　横江　秀隆

先端応用外科学
海宝　雄人　久保田　亨
佐久間洋一　篠原　靖志
神宮　和彦　原田　昇
牧野　治文　元山　逸功

生命情報科学
田村　裕

手術部
飯寄　奈保

総合診療
生坂　政臣

薬剤部
大森　栄　北田　光一

先端和漢
笠原　裕司

43クラス会

4248　ゐのはな同窓会

五窓会（専23）

八千会代表大沢弘和（専26）

葉々会

お詫び

153号に掲載されました「新ゐのはな同窓会館設立事業募金状況」に、ご寄附いただいた一部の方のご芳名が掲載されませんでした。ご迷惑をおかけいたしました関係各位の皆様には深くお詫び申し上げます。

千葉医学の伝統言語化プロジェクト中間報告

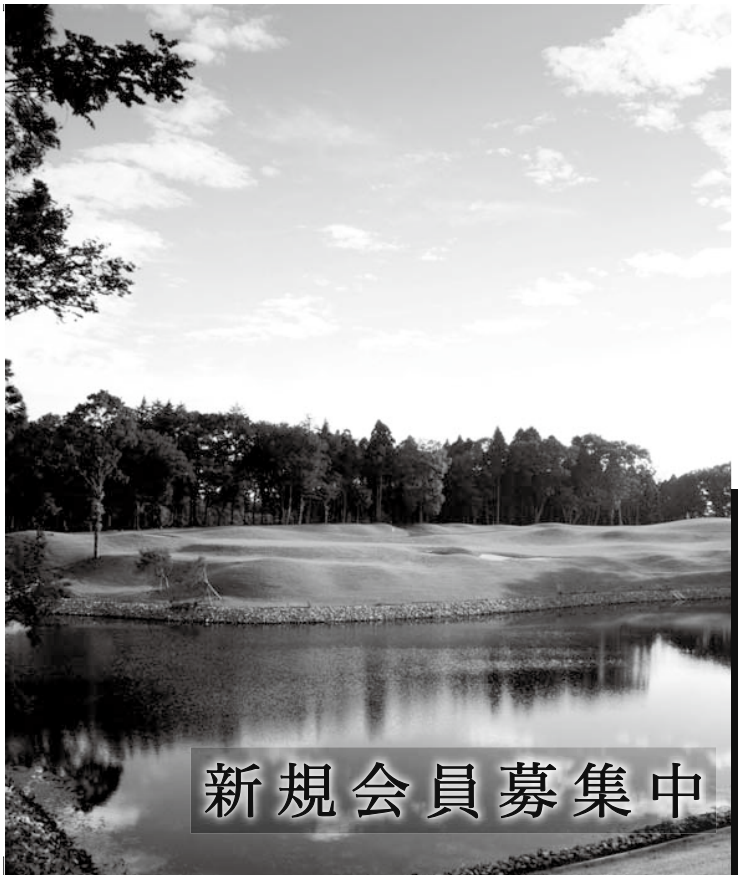
千葉大学医学部創立135周年記念事業として「千葉医学の伝統言語化プロジェクト」を立ち上げ、前号のゐのはな同窓会報で「千葉医学の伝統」を表現する言葉を募集しました。その結果、多くの先生方から貴重なご意見をいただき、27の言語化候補文書を集計することができました。ありがとうございました。これを更に関係の先生方に依頼して絞込みを行いました。現段階で６の言語化候補文書が集計されており、さらに意見集約を行っていく予定です。主な文書を以下に記載しますが、その由来などの詳細についてはゐのはな同窓会のホーム・ページ（http://www.inohana.jp/）に載せますのでご参照下さい。集計された主な文書は以下のごとくです、①獅胆鷹目行以女手、②獅胆鷹目（したんようもく）行以女手（行ふに女手を以てす）遺訓仁愛（いくんじんあい）貫之為民（之を貫き民の為にせん）、③人間の尊厳と先進医療の調和をめざし，次世代に伝える、④Beginning is half the success, not giving up on the way is complete success、⑤医学は厳しく、医療は暖かく。

プロジェクト委員会委員長　田邊　政裕

新ゐのはな同窓会館設立事業について

常任理事会議事要旨にも記載されていますように、新ゐのはな同窓会館の一期工事の概要が明らかになってきました。場所は図書館前の駐車場で、学生のサークル会館、図書館を結ぶ軸上にあり、学生にとっては利便性の高い立地になります。施設は80名程度の講演会が可能な多目的ホールを中心に、北側に同窓会事務室（千葉医学会、猪之鼻奨学会を含む）、西側に学生用の合宿施設（60畳）が配置されます。今年中に実施設計を完了すれば、来年早期に着工し、約１年で竣工となる予定です。完成すると新たな亥鼻のシンボルとなることが期待されます。

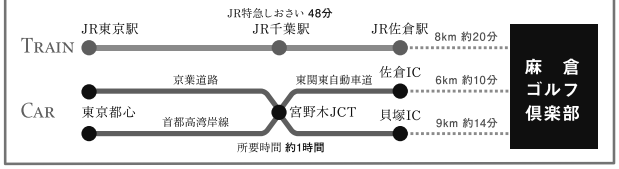
建物・設備等整備委員会委員長　田邊　政裕



■コース
18ホール／PAR72／
7,103ヤード　キャディ制

■練習場
ドライビングレンジ 250ヤード
アプローチ練習場

東京都心から1時間という、好アクセス、好立地。



※料金など詳しくはお問い合わせください。

麻倉ゴルフ倶楽部
千葉県佐倉市内田670
募集代理 株式会社東急リゾートサービス
Tel.043-498-6630（麻倉ゴルフ倶楽部内）
http://www.asakura-gc.jp
東急リゾートサービス　東急ゴルフリゾート　検索
www.tokyu-golf-resort.com

平成22年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後臨床研修プログラムとして、５種類（プログラムＡ、Ｂ、Ｃ、産婦人科、小児科）を用意している。１年目に大学病院、２年目に協力病院で研修する方式（プログラムＡ）、１年目に協力病院、２年目に大学病院で研修する方式（プログラムＢ）、１年目・２年目共に大学病院で研修する方式（プログラムＣ）、その他である。

また、卒後２年間の初期研修プログラムを終えた研修医を対象に後期研修医制度を立ち上げ、シニアレジデントの受入にも積極的に対応している。

研修先プログラム	１年目	２年目	人数
千葉大Ａ	千葉大医学部附属病院	千葉市立青葉病院	2
千葉大Ａ	千葉大医学部附属病院	JFE 健康保険組合川鉄千葉病院	1
千葉大Ｂ	国立病院機構千葉医療センター	千葉大医学部附属病院	2
千葉大Ｂ	君津中央病院	千葉大医学部附属病院	2
千葉大Ｂ	成田赤十字病院	千葉大医学部附属病院	2
千葉大Ｂ	千葉市立海浜病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	千葉市立青葉病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	社会保険船橋中央病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	済生会習志野病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	千葉労災病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	松戸市立病院	千葉大医学部附属病院	1
千葉大Ｂ	聖隷横浜病院	千葉大医学部附属病院	1
東大医学部附属病院Ａ	東大医学部附属病院		1
自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	1
京都大学医学部附属病院Ｃ	静岡県立総合病院	京都大学医学部附属病院	1
東京医科歯科大学市川総合病院	東京医科歯科大学市川総合病院	東京医科歯科大学市川総合病院	1
東京慈恵会医科大附属病院	東京慈恵会医科大附属病院	東京慈恵会医科大附属病院	1
東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	1
松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	7
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	5
国立国際医療センター	国立国際医療センター	国立国際医療センター	4
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	4
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	3
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	2
済生会習志野病院	済生会習志野病院	済生会習志野病院	2
旭中央病院	旭中央病院	旭中央病院	2
新松戸中央総合病院	新松戸中央総合病院	新松戸中央総合病院	2
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	2
千葉県立病院群	千葉県がんセンター・佐原病院		2

研修先プログラム	１年目	２年目	人数
都立駒込病院	都立駒込病院	都立駒込病院	2
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2
手稲渓仁会病院	手稲渓仁会病院	手稲渓仁会病院	1
国立病院機構千葉東病院	国立病院機構千葉東病院	国立病院機構千葉東病院	1
国立国際医療センター国府台病院	国立国際医療センター国府台病院	国立国際医療センター国府台病院	1
千葉県立病院群	千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	1
千葉県立病院群	千葉県がんセンター・県循環器センター		1
千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1
虎の門病院	虎の門病院	虎の門病院	1
聖路加国際病院	聖路加国際病院	聖路加国際病院	1
東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	1
都立府中病院	都立多摩総合医療センター	都立多摩総合医療センター	1
公立昭和病院	公立昭和病院		1
公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	1
多摩総合医療センター	多摩総合医療センター	多摩総合医療センター	1
NTT 東日本関東病院	NTT 東日本関東病院	NTT 東日本関東病院	1
社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	1
立川相互病院	立川相互病院	立川相互病院	1
日本赤十字医療センター	日本赤十字医療センター	日本赤十字医療センター	1
三井記念病院	三井記念病院	三井記念病院	1
横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	1
横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	1
藤沢市民病院	藤沢市民病院	藤沢市民病院	1
菊名記念病院（横浜）	菊名記念病院（横浜）	菊名記念病院（横浜）	1
聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	1
社会保険中京病院	社会保険中京病院	社会保険中京病院	1
康生会武田病院	康生会武田病院	康生会武田病院	1
沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	1

第28回日本医学会総会

2011年　東京

The 28th General Assembly of the Japan Medical Congress

いのちと地球の未来をひらく医学・医療 ー理解・信頼そして発展ー

◆◆学術講演◆◆

4月8日（金）～4月10日（日）

会場：東京国際フォーラム、
三菱ビルコンファレンススクエアエムプラス、
丸ビルホール＆コンファレンススクエア、
東京商工会議所

◆◆展示◆◆

博覧会：4月2日（土）～4月10日（日）
学術展示：4月7日（木）～4月10日（日）

会場：東京国際展示場＜東京ビッグサイト＞、
丸の内エリア

会　頭　　：矢﨑　義雄
副会頭　　：小川　秀興、　開原　成允、　鈴木　聰男
準備委員長：永井　良三

◆主務機関：東京大学医学部、東京医科歯科大学医学部、千葉大学医学部、順天堂大学医学部、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、日本大学医学部、東京女子医科大学、日本医科大学、帝京大学医学部、東京医科大学、昭和大学医学部、東邦大学医学部、杏林大学医学部、国立国際医療センター、虎の門病院、聖路加国際病院、東京都病院経営本部、東京都医師会

～来年の日本医学会総会への参加（事前登録）をよろしくお願いいたします！～

総務委員長（千葉大学分化制御学・前研究院長）　徳久 剛史
登録委員　（千葉大学遺伝子生化学）　瀧口 正樹

事前参加登録期間　2010年3月3日（水）～ 2011年1月31日（月）

◆日本医学会分科会（一部）単位取得可能

分科会の認定する専門医制度について、分科会規定に基づき単位取得が可能です。

◆『日本医師会認定産業医』単位取得可能

最大10単位の取得が可能です。※参加登録料とは別途、申込料￥5,000が必要

◆団体申込みによる登録料割引あり

『医師・歯科医師・研究者』の方は、団体登録にて11名につき1名無料となります。

オンライン登録

第28回日本医学会総会HPよりご登録いただけます。
http://www.isoukai2011.jp/
『参加登録ページ』よりお申し込み下さい。

オフライン登録

事前参加登録用紙に必要事項をご記入いただき、FAXもしくは郵送にてお送り下さい。

登録料（円）　※1～3は前回総会より5,000円安い設定となりました

参加カテゴリー	事前参加登録	総会当日
1.　医師・歯科医師・研究者	25,000	30,000
2.　医薬情報担当者（MR）	25,000	30,000
3.　卒後5年までの医師・歯科医師	10,000	15,000
4.　大学院生（医師・歯科医師）	8,000	12,000
5.　コ・メディカル	8,000	12,000
6.　学生（全学部・専門学校生） 大学院生（医師・歯科医師以外）	2,000	3,000
★新設カテゴリー★ 7.　病院事務・管理関係者	5,000	8,000
8.　同伴者（医療従事者以外）	3,000	5,000

第12回ゐのはな同窓会学外研究助成募集要項

第12回（2010年度）ゐのはな同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。

一、**助成対象**　本会会員で、大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している医師および歯科医師が、個人またはグループの代表となって行う研究。

一、**助成金**　本年度助成総額は50万円。

一、**応募方法**　6月1日から7月31日までに申請して下さい。

一、**助成研究の決定**　選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は2010年11月末までに各申請者に通知すると共に、ゐのはな同窓会報に掲載します。

一、**問い合わせおよび申請用紙請求先**
千葉大学医学部内ゐのはな同窓会事務室（申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることもできます）

おくやみ

石村　貞雄（昭13）
井上　優（東京医専昭13）
鈴木不二夫（昭15）
小守　重徳（昭16⑫）
窪田　静夫（昭17）
越川　一男（昭17⑨）
来仙　隆（専18）
渡邊　昌平（昭20）
今島　浩（専20）
一井　正（昭22）
雁部　敬（昭22）
茂木　智子（歯医専昭22）
平岡　眞（昭23）
佐藤　巌（昭24）
濱　馨（昭25）
田那村　至（専25）
真崎　和夫（専25）
伊藤正太郎（東京大専昭25）
宮坂　厚（東京大専26）
樋口　道雄（昭29）
廣瀬　賢次（昭29）
岩塚　迪雄（昭30）
齋藤　仁隆（昭30）
染谷　昇（昭和医大昭30）
山下　卓（昭30）
多田　富雄（昭34）
軽部冨美夫（昭35）
平沢　康（昭35）
高山　嘉雄（昭和大昭40）
緒方　健一（平21）

編集後記

本号の編集会議は春とは思えない寒さの中を編集委員の各先生がお集まりになり4月15日ペリエホールにて開催されました。編集委員長の清水栄司先生の熱い司会のもと毎回ご参加くださる伊藤晴夫同窓会長の挨拶に始まり、事務局の方々の丁寧な校正のおかげで字句のチェックより内容の吟味を中心とした活発な議論が交わされました。

さて本号の内容ですが、伊藤会長の平成22年千葉大学医学部卒業証書・学位記伝達式でのご祝辞、近藤福雄先生、中郡聡夫先生、島田英昭先生の教授就任のご挨拶、片山喬先生叙勲のご挨拶とおめでたい記事が冒頭を飾っております。和漢診療学寺沢捷年教授の最終講義に関する記事が続きました。

各地ゐのはな会だよりとクラス会の欄は出席された方ばかりではなく残念ながらご参加できなかった方々にも楽しめる記事と思います。編集委員の青木謹先生から事務局の努力で写真の説明が整列順（右側から）に統一され判り易くなったとのお誉めいただきました。同窓会報の役割をあらためてお教えいただいた感がいたします。

今回は医学部水泳部から創部50周年祝賀会開催の寄稿がありました。部活動からの寄稿により同窓会報の多様な発展が期待されます。

学内の教授と学外臨床教授による研修病院研修プログラムのご紹介をいただきました。研修医だよりは4人の若い先生からいただき、プリクラを使ったかと思われるお二人の写真には、オジサンぞろいの編集委員一同びっくりしつつも好評を得ました。卒後研修に関連する記事は、今や同窓会報の重要な役割の一つになりました。委員からは病院紹介の記載には極力同窓生の現況を入れるようにとの指摘がありました。投稿の際の参考にしていただければと思います。

「会員から」の欄では、井坂茂男先生と小島弘敬先生からご寄稿いただきました。現在特に定まった規定はございませんが、これからも活発な投稿をお待ちしております。

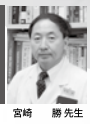
（坂本　薫・昭51）

第86回
千葉医学会
学術大会

平成22年
6月4日（金）
16:10〜18:30
千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂
大会終了後、懇親会有（無料）

特別講演

中島　伸之 先生
一外科医 ― 血管外科医の回想
ニューヨーク〜大阪〜千葉での経験から
演者　中島　伸之 先生（千葉大学　前教授／佐藤病院）
座長　奥井　勝二 先生（千葉大学　元教授）

招待講演

宮崎　勝 先生
肝胆膵外科
世界の現況と今後の課題
演者　宮崎　勝 先生（千葉大学大学院医学研究院　臓器制御外科学　教授）
座長　諏訪　敏一 先生（浜谷赤十字病院　院長）

ご来場の際は、公共の交通機関をご利用願います。
多くのご来場をお待ち申し上げております。
参加手続き及び費用は不要
問合せ　千葉医学会
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1　千葉大学医学部内
TEL043-202-3755　FAX043-202-3757
e-mail：info@c-med.org　http://www.c-med.org